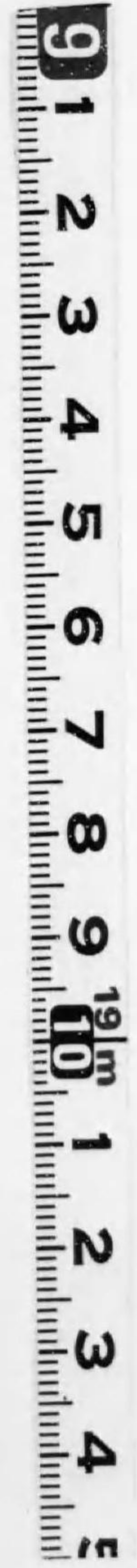


特116

503

教育學
上卷

東京文信社發行



始



特116

573

沈
岡
講
師
述

教
育
學
上
卷

東
京
文
信
社
發
行



第116
503

池岡講師述

教
育
學
上
卷

東京
文
信
社
發
行

教育學上卷目次

第一編 緒論

第一章 教育ノ意義

第一節 広義ノ意義

第二節 狹義ノ意義

第二章 教育ノ效果論

第一節 教育ノ效果ニ関スル諸學說

第二節 教育限界決定ノ要素

第三章 教育ノ必要論

第一節 個人ノ見解

第二節 社會ノ見解

第三節 國家ノ見地ヨリ

第四章 教育學ノ意義

第一節 教育學卜科學

教育学上卷 目次 終

第二章	近世期ニ於ケル教育理想	三四
第九章	教育ノ目的ニ關スル諸說並ニ其ノ批評	三六
第一節	實際主義	三六
第二節	理想主義	四〇
第三節	理想主義ト實際主義ノ調和	五二
第四節	個人主義	五八
第五節	社会的教育說	六一
第六節	教育目的ノ論定	六四
第七節	各種教育ノ目的	六七

第二章	學及術トシテノ教育学	一五
第五章	教育学ノ内容	一七
第一節	教授論	一八
第二節	訓育論	二〇
第三節	養護論	二二
第六章	教育学ト他科学トノ關係	二四
第一節	倫理学トノ關係	二四
第二節	心理学トノ關係	二六
第三節	生理、衛生、医学等トノ關係	二八
第四節	社会学政治学経済学等トノ關係	三〇
第七章	教育学研究ノ必要(志難ニ對スル批評)	三二
第一節	教育学研究無用論及其批評	三三
第二節	其他ノ教育学研究無用論ニ對スル批評	三四
第二編	教育目的論	三五
第八章	教育目的論ノ在史的發展	三五
第一節	古代及中世ニ於ケル教育ノ理想	三六

教育學

池岡講師述

第一編 緒論

第一章 教育ノ意義

第一節 廣義ノ意義

教育ノ意義一ツキテハ意見区々タルモノアリ。試ミニ吾者ノ二三ノ説ヲ述フレハ *Montaigne* 氏ハ教育ハ知識ヲ授ケ徳性ヲ涵養スルコトナリトスヒ *Comenius* ハ教育ハ知識ヲ授ケ徳性ヲ涵養シ真正ナル信仰ヲ起サシムルコトナリトスヒ *Peestalogy* ハ教育トハ人間ノ有スル凡テノ能力ヲ調和的ニ發達セシムルコトナリトスヘリ。此

ノ如ク本考ニヨリテ種々説アレ共今日ニテハ広狹ニ決ニ解セラレ。
広義ニ於テハ人ノ発達ニ影響ヲ及スル作用ヲ教育トスフ即チ自然
家庭、學校、社会國家等

第二節 狹義ノ意義

狹義ニ於テハ成熟者コト未成熟者ニ對シテ與フル有意の具案的作用ナリトス。

第一、教育ハ人ト人トノ關係ニヨリテ成立ス、從テ自然ノ影響、
人カ動物ニ對テ教フル等ハ教育ニアラス、教育ノ主体ハ成熟
タル人ニ對シテ未成熟ナル被教育者ニ影響ヲ及ホシ得ル状態ニア
ルヲ要ス、之ニ對シテ教育ノ客體タル被教育者ハ教育的作用ヲ
受クル能カク有スルモノヲ云フ

第二、教育ハ有意的作用ナリ有意のトハ一定ノ目的ヲ認メテ故意
ニナス作用ナリ從テ家庭社会ノ影響ハ無意的ナル部分多キカ故

ニ狹義ノ教育ノ中ニ入ル、能ハズ、

第三、教育ハ具案的作用ナル矣即チ教育者カ被教育者ニ影響ヲ與フ
ルニ由リテ予メ手段方法、案ヲ立テ、ナスコトヲ云フ、以上ハ
教育ノ形式然意義ナリ、内容のニ考フレハ教育ノ目的ヲ示サズ
レハカラス、然レテ此ハ目的論ニ於テ論ス、

字義、教育ノ字義ニツイテ考ルニ英語ニテハ Education ナル語
アリ、コレハラティン語、*educare* ナル動詞カ Education ナル
名詞ニ転シエカラ Education ナル語ヲ生シタリ、而シテ

educare ナル動詞ハ引キ出ス或ハ導クト云フ意味ナリ、又独乙
語ニテハ教育ヲ *Erziehung* ト云ヘリ、コレハ *ziehen* ナル
動詞カ意味ヲ取メルタメニ *erziehen* トナリ、ソレガ名詞ト
ナリタルナリ、而シテ *ziehen* ハ引キ出ス或ハ導クト云フ意
味ニテ英語ノ諸源ノ意味ト一致セリ、

又教育者ナル語ニ對シテハ英語ニテ *Pedagogics* トイフ、
Ped ハ子供ノ義ニテ *agogics* ハ引キ出ス或ハ導ク事ノ意ナ

り、独二語ノ *Pedagogik* モ同義ナリ

第二章 教育效果論

第一節 教育ノ効果ニ因スル諸本説

教育ノ効果ニ因シテハニツノ極端ナル説アリ一ハ教育ヲ万能ナリトスルモノ一ハ教育ヲ無能ナリトナスモノナリ。前者ノ云フ所ヲ見ルニ例ハバ *Kant*、*Locke* ノ思想トナリ。*Kant* ニヨレハ人ハ皆先天的ニ理性ヲ有ス。教育ハ理性ヲ自由ニ發動セシムル様ニスル働キナリ從テ何人ニテモ理性的ナラシムルカ故ニ人ハ教育ニヨリテノミ人トナルト云ヘリ *Locke* ニヨレハ人ノ精神ハ本來自紙ノ如キモノニシテ先天的ニハ何事ノ觀念ヲモ有セザレナリ、全ク經驗ニヨリテ精神ノ内容ヲ作ルモノニシテ從テ教育ハ如何

ナル人ヲモ作り得ハントナス *Kant* ノ説ハ先天的ナル理性ヲ考ヘ *Locke* ハ後天的ナル經驗ヲ重シスルモノニシテソノ立脚地ニ相違アリ共教育ノ萬能ヲ主張セル者ハ一致セリ。以上ノ思想ハ十八世紀ニ出テタルモノナレ共十八世紀末ヨリ十九世紀ノ始メニ當リ *Kant* ノ理性主義ニ反對シテ *Romantikismus* ノ思想起レリ。コノ思想ハ感情・衝動ヲ重シジ個性ヲ高調スルモノナリ。例ハ *Schopenhauer* *Wetzel* ハ曰ク人ノ個性ハ天賦的ノモノニシテ將來ヲ通シテ全一ノモノナリ。之ヲ人為ニヨリテ矯正又ハ製造セントスルカ如キハ不可能ノ事ナリト。

第二節 教育境界決定ノ要素

以上ニ種ノ極端説ハ何レモ一面ノ真理ヲ有スレ共大ナル欠陥ヲ有スルカ故ニ兩者ノ中ノ真理ヲ結合シテ妥當ノ見解ヲ構成スルヲ要ス即チ教育ハ万能ナラサレト全時ニ無能ニアラス教育ニハ制限アリ

然レトラソノ制限ハ總体ノモノニテアラズ教育ハ此等ノ制限ヲ微弱ナ
ラシムルモノナリ。此ノ實ニ努力ヲ要ス依テ次ニ教育ニ對スル制限
極言セハ教育ノ界限ニツキテ考察スルヲ要ス

一、主觀的要素

個性、遺傳
客觀的要素 自然、家庭、社会

教育ノ界限一ツイテハ主觀的ノ界限ト客觀的ノ界限トノ二方面ニ
分チテ考フルコトヲ得

第一、主觀的界限

主觀的界限トハ被教育者ニ固有セル要素ヨリ来レソノ主ナル
条件ヲ列举スレハ次ノ如シ

- 第一、生理的・心理的ノ法則 即チ被教育者ノ身体並ニ精神ニ行
ハル、自然法則ハ教育ニヨリテ侵スコト該ハス之ニ反シテ教
育ハ夫等ノ法則ニ依ヒテ行ハナルハカラズ
- 第二、年齢ナリ 被教育者ノ心身ノ發達ノ程度ニ依リテ教育

ノ方法ヲ異ニセサルハカラス、即チ年令カ教育ノ方法ニ制限
ヲ加フルナリ

第三、性別ナリ 男女ハ生理的並ニ心理的ニ天然ノ差異ヲ有
スルノミナラス將來ノ生活ノ有様ヲ異ニスルモノナルカ故ニ
教育ニ於テ此ノ差ヲ考慮セサルハカラズ

第四、天稟ノ素質ナリ 此ハ天賦ノ体質心性ノ特質等ヲ指ス
例ハ短軀ノ人或ハ低能ナル人ヲ教育ニヨリテ人為的ニ變更
セシムルコトハ不可能ナリ

教育ハカ、此制限ノ裡ニヨリテ可及的ノ發達ヲ促シ得ルモ
ノナリ、又個性モ天稟ノ部分ヲ多ク有スルモノニシテ之

教育ニヨリテ根本的ニ變化セシムルコト能ハス 虽モ教育ニ
ヨリテ境遇、生活狀態等ヲ調節スルコトニヨリアソノ欠陥ヲ
緩和シ得ルナリ

第五、遺傳ナリ 從來ハ遺傳ニツキテ教育ノ不可能説ヲ唱ヘ
タルモノアリ共今日ニ於テハ遺傳ハ一ノ傾向ニシテ總對ニ之

ヲ変更シ得サレモノトナスノ考ハ存セサレニヨリ即チ境遇生
活状態ノ調節ニヨリテ不良ナル傾向ヲ抑制シテ良好ノ傾向ニ
転セシムルナリ。

然レドモ遺傳ノ教育ニ與フル影響ハ次シテ小ナルモノニア
ラス。

第六、心身ノ一時的ノ状態ナリ。例ハ、疾病ニヨル心身ノ異
状ノ如キハコレナリ。

以上ノ諸項ハ被教育者側ニ固有セル所ノ教育ニ対スル制限ナ
リ、次ニ客観的ノ制限ニツキテ考フレニ次ノ諸項ヲ挙クルコト
ヲ得。

第二、客観的ノ制限

第一、天然ノ環境、例ハ、風土、気候、地勢等自然カ人間ノ
心身ニ及ボス影響ヲ指ス。

第二、家庭、之ニツキテハ種々ノ実ヲ挙クルヲ得可シ、例

ハ、生活状態即チ衣食住衛生等カ不良ノ為營養不良ノ子女ヲ
生スルカ如シ、又家族ノ品性、教育ノ程度、職業、家風等カ
子女ニ影響ヲ及ボシテ学校教育ニ制限ヲ加フ或ハ又家庭ニ於
ケル特別ノ事情、例ハ、孤兒、経兒ソノ他之ニ與スル家庭ノ
不幸ノ為ニ子女ノ心身ニ影響ヲ及ボシテ之カ学校教育ニ対シ
テ制限ヲナス。

第三、社会ナリ。之ニツキテモ種々ノ実ヲ挙クルコトヲ得、
例ハ、交友其ノ一ナリ、小年ノ墮落シテ不良ニ陥ル場合ニハ
之ニ原因スルコト多シ又社会ノ風俗習慣等モ有力ナル制限ナ
リ、又時代精神、例ハ、外來文化ニヨル社会思潮ノ変遷、戰
争等ノ為ニ特有ナル時代精神發生シテ教育カ自然ニ之等ノ影
響ヲ蒙ルモノナリ。

第四、国家ナリ。国家ハ一定ノ教育方針ノ下ニ教育ノ施設ヲ
ナシ之カ実施ヲ要求スルモノナリ、從テ實際教育ニ対シ一定
ノ制限ヲナスモノナリ。

第三章 教育ノ必要論

教育ノ必要ハ殆ント説明スル要ナキカ如シト云モ教育ヲ研究スルニ当リテハ一恣ソノ概念ヲ明ニシ置カントス

第一節 個人的見解

第一個人的ノ見地ヨリ見レハ個人ノ独立ノ準備ヲナスノ真ヨリ見テ必要ナリ。動物ニ於テ独立ノ準備期ハ甚々短カケレ共人間ニ於テハ甚々シク永キヲ要ス。身体的ニ見ルモ保育、養護ノ長キヲ要シ、且又精神ノ諸能カノ発達ニツキテモ長期ヲ要ス。而シテ文化ノ高キ程長キ準備ヲ要ス。勿論人間ニハ自己保存ノ本能、直恣本能、社会本能等アリテ或程度迄ハ自然ニ本身ノ発達ヲ遂ケ得ルモノナレ共之

ヲ本能ニノミ致生スル時ハソノ発達ハ極メテ低度ノモノニシキナルナリ。故ニ教育ニヨリテソノ発達ヲ促進スルコトヲ要ス。尚独立ノ準備ヲ興フル上ニ必要ナルノミナラス一歩ヲ進メテソノ不敏ヲ發揮シ現在ノ文化ニ貢献センカ為ニハソノ基礎トシテ教育ヲ必要トスルナリ。

第二節 社会的見解

第二社会的見地ヨリ見レハ社会文化ノ存続発展ノ為ニ必要ナリ。現存ノ社会文化ハ本能ニヨリテ自然ニ修得シ得レ共社会ノ文化ノ進ムニ從ヒ甚々複雑トナリ。前代並ニ現代ノ文化ヲ遺傳ナク修得セシムンニハ教育ニヨラサルヘカラス。又社会ハ只ニ前代ノ文化ヲ継承スルニ止マラスシテ更ニ將來ニ向テソノ向上発展ヲ企圖セサルヘカラス。ソノ基礎ヲ興フルモノトシテ教育ヲ必要トス。例ハハ風俗習慣、道德宗教、芸術、政治、經濟思想等ノ諸方面ニ互リテ大カク存続

改善進歩ヲ計ラントスルニハ教育ノカニ俟ツコト大ナルモノナリ。

第三節 國家的見地ヨリ

第三國家的見地ヨリ見レハ國家ハ社會進化ノ結果到達シタル完成社會ニシテ各國家ハ建國ノ事情殊違ノ尸中國民性等ヲ異ニシ各々自主・独立發展ヲ企図シツ、アリ今日國家ヲ輕視スルノ思想ナキニアラズ。例ハハ世界主義又ハ人道主義或ハ又夫等ノ思想ヲ根柢トスル國際主義或ハ又極端ニ走レル無政府ノ思想 *Anarchism* 等アレ共此等ノ思想ハ現實ヲ遠サカレル机上論ニスキス、然レ共國家發展ノ事實ニツキテ考フレハ國家ハ人性ニ基キテ發生發展セシ所ノ必然ニシテ又必須ノ組織ニシテ個人ハ國家内ニ生活スルコトヨリテソノ生命・財產ノ保障ヲ得自己ノ人格ノ完成ヲ遂ケ得ルナリ。換言スレハ個人ハ國家ヲ媒介トシテ人格ノ發展完成ヲナシ得ルナリ。従テ各國民ハ自國ノ發展進歩ニカヲ注キツ、アレナリ、而シテ之ヲ實現ス

ル為ニハ教育ノカニヨルヲ必要トス、現代ノ文化國ニ於テハ義務教育ノ制度ヲ設ケテ強制的ニ國民ニ教育ヲ受ケシメツ、アリ、國家ハ教育アル國民ヲ必要トナス。故ニ國民ニ教育ヲ強制スルノ権利ヲ有シ國民ハ國家ニ對シテ教育ヲ受ケルノ義務ヲ有ス又一面ヨリ見レハ國家ハ教育各級ノ施設ヲナスノ責任ヲ有シ國民カ教育ヲ受ケルノ權利ヲ有スルトモ見ルコトヲ得。此ノ如ク國家ト國民トハ教育上互ニ利益義務ノ關係ヲ有ス以上ニヨリテ國家的見地ヨリ教育ノ必要ナルコトヲ認メサレヲ得サルナリ。

第四章 教育學ノ意義

教育學ノ意義ヲ考究スルニハ從來行ハレタルニ種ノ論実ヲ省ミレノ要アリ。

第一節 教育學ト科ナ

第一ハ教育學ハ獨立シタル一個ノ Science ナリマ否ヤノ向題ナリ
之ヲ論スレニハ科ナノ何タルマヲ明ニスルヲ要ス。科ナハ特殊事實
ニツキ科ナ的方法 Scientific method ヲ用ヒテ構成シタル系統的
知識ヲ云フナリ。ソノ取扱フ特殊事實ノ如何ニヨリテ多種多様ノ科
ナ生スルナリ。科ナ的方法トハ觀察・實驗・測定・統計等ニヨリテ
論材ヲ蒐集シテ之ヲ比較分類整理スルコトニヨリテ事實相互ノ關係
ヲ明ニスルニ最良ニ其等ノ事實ヲ概括スル所ノ普遍的法則
ニ到達セントスレニアリ。

教育ナハ教育テ特殊事實ニツキテ科ナ的方法ニヨリ構成セラレ
タル系統的知識ナリ。故ニ獨立シタル一個ノ Science ナルナリ。
教育ナヲ一個ノ科ナニアラストスル主張ハ教育ナノ構成スルニ出
リテ基礎又ハ準備トシテ必要ナル他ノ科ナ例ハハ論理ナ、心理ナノ

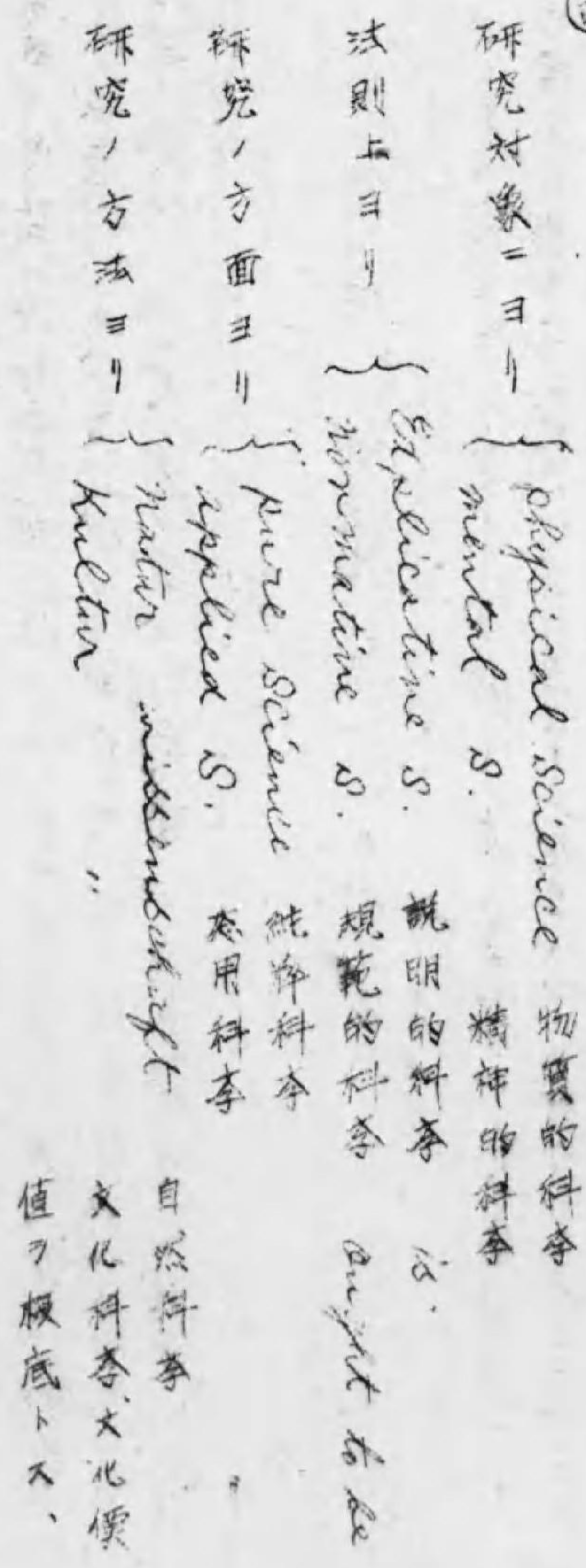
如キヲ除去スレハ教育ナ獨自ノ領域ハ存在セサルカ如クニ考フルニ
由ル、然レテ何レノ科ナニ於テモ其カ成立スルニハ其ト連関セ
ル他ノ科ナノ知識ヲ必要トス此ノ實ハ特ニ教育ナノミニ限ラレ、ニ
アラサルナリ。勿論教育ナノ成立ニツキテハ他ノ Science ノ知識ヲ
必要トスレ共其レノミニヨリテ教育ナハ成立スルモノニアラスシテ
教育ナノ獨自ノ研究領域ヲ有ス。故ニ此ノ反付説ハ肯定スルコト教
ハサルナリ。

第二節 學及術トシテノ教育學

第一ノ實ハ教育ナカ學ナルカ術ナルカノ向題ナリ、之ニ就キテハ
從來學者ノ所論多シ。想フニ教育ナト教育トヲ混同スルヨリカ、
議論起リ来ルナリ。教育ナハ教育ニ因スル系統的理論ヲ考究スルモ
ノニシテ一個ノ科ナナリ。然レ共教育ハ學ニアラスシテ術ナリ、教育
ナノ理論ヲ實際ニ応用スル所ノ作養ニシテ術ナリ。要スルニ教育ナ

ハ教育ノ一切ノ問題ヲ包括シ確實ナル學術的根柢ヨリテ系統的理論ヲ設定スルモノナリ。

註



第五章 教育學ノ内容

教育學ノ内容ニツキテハ學者ノ見ル所ニ相違アレ共大体一於テ目的論ト方法論ニ區別シテ考フルコトヲ得。目的論ハ教育ノ理想ヲ論定シ、方法論ハ之ヲ實現スルノ方法ヲ論スルナリ。

第一節 教授論

第一ハ教授論。此ハ社会生活ノ精神的ノ所産タル所ノ知識技能ヲ授ケテ以テ精神ヲ陶冶シ其ノ發達ヲ促スコトヲ以テ目的トスルモノナリ、此ノ方面ヨリノ教育ヲ知育又ハ知的陶冶ト称ス。

第二節 訓育論

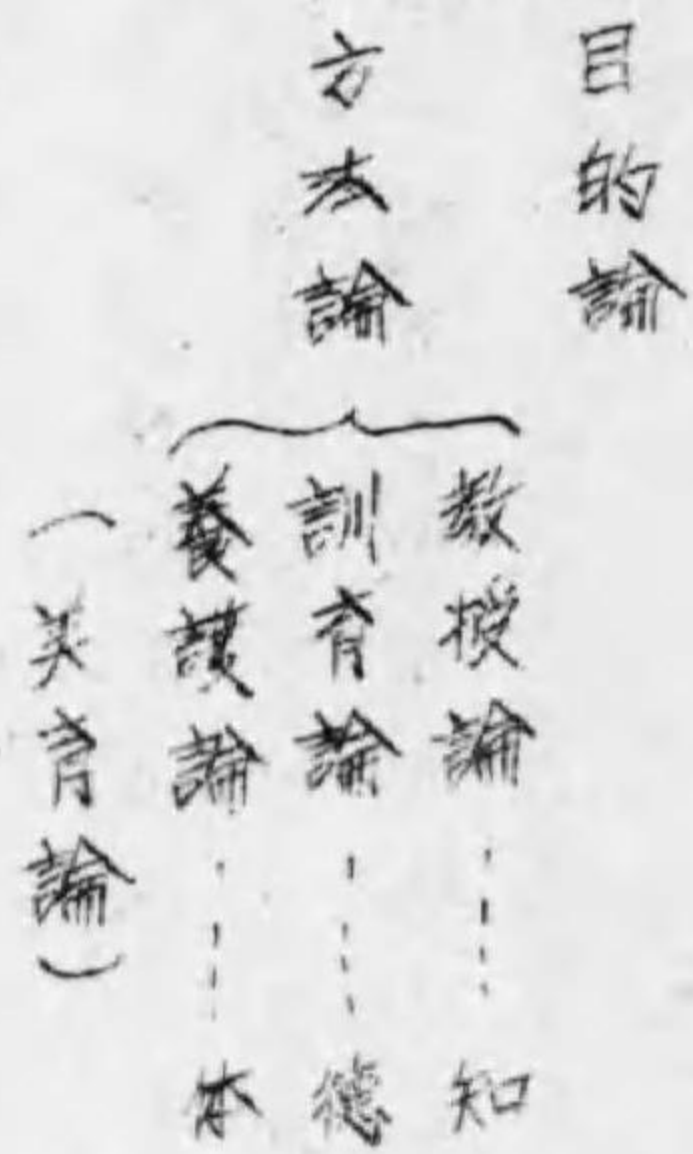
第二ハ訓育論、此ハ品性ノ陶冶ヲ目的トスルモノナリ、即チ未成
 熟者ヲ教導シテ社会ノ道德的標準ニ達セシメントスルモノナリ、訓
 育トハ意思ノ陶冶ニ重キヲ置キ訓練又ハ意思的陶冶トス、之ヲ徳
 育トモ称ス。

第三節 養護論

第三ハ養護論、此ハ身体ノ發育ヲ完全ナラシメ体力ヲ増進セシム
 ルヲ目的トス、幼年者ニアリテハ身体ノ保護ヲ主トシ少青年者ニア
 リテハ鍛練ヲ主トス知育德育ニ対シテ養護ヲ体言トモ称ス。

(註)

教育學



Herbart 氏ノ分類

教育學
 目的論(倫理學)
 方法論(心理學)

Reim 氏ノ分類

目的論

教授論
 一般教授論
 各科教授論

教育學

方法論

教導論
養護
兒童管理
訓練

第六章

教育學ト他科トノ關係

教育學ノ研究ニ當リテハソノ基礎知識トシテ或ハ補助學トシテ他科トノ知識ヲ必要トス而シテコノ實ヲ見ルニ教育學ト他科トノ關係ヲ見ルコト必要ナリ、

第一節

倫理學トノ關係

倫理學ハ人間ノ行為品性ノ規範ヲ論究シ人性ノ目的タル最高善ニ

ツキテ研究スルモノナリ、教育ハ完全ナル人格ヲ作り上げルニアルカ故ニ倫理ノ内題ト密接ナル關係ヲ有ス。教育學ノ目的ハ倫理學ノ目的ト當然一致スヘキ性質ノモノニシテ又訓育論ニ於テハ倫理學ノ知識ヲ基礎トシテ考ヘサレヘカラス、Herbart 氏ハ教育ノ目的ハ倫理學ニヨリテ決定セラル、モノナリトシタレ共教育ノ目的ハ唯ニ道德的方面ニ因スルノミナラス日常生活ニ必須ナル知識技能ヲ授クルコトヲモ目的トスルモノナルカ故ニ Herbart ノ考ハ余リニ倫理學ヲ高揚シ過キシ煉ヒアリト云フベシ。
然レ共倫理學カ教育學ノ目的論及訓育論ニ對シテ基礎的要件タルコトハ疑ヲ容レサレナリ、

第二節

心理學トノ關係

心理學ハ精神現象ニツキテ自然的法則ヲ研究スルモノナリ、而シテ精神ハソノ心理的法則ニ支配セラレ、モノナルカ故ニ教育者ガ被

教育者ノ心理ノ何タルカソノ察達ノ過程ニツキテ予メ之ヲ理解スル
必要アリトス。即チ心理學ハ教育ノ主トシテ教授訓育ノ方面ニ關係
ヲ有スルナリ。實ニ過去ニ於ケル教育者ハ心理學ノ察達ニヨリ奇矯
的ノ根柢ヲ確立シテ進歩シ来レルナリ。觀此兒童心理學、實驗心理
學等ノ察達ニ伴ヒ教育ニ於テモ實驗教育ヲナレモノ生レ實驗觀察、
統計ニヨリテ兒童ヲ研究スル傾向生スルニ至レリ。

第三節 生理 衛生 醫學等トノ關係

教育者カ此等ノ諸學科ト關係スルハ主トシテ養護論ノ方面ナリ。
然レ共精神ハ身体ト密接ナル關係ヲ有スルカ故ニ同接的ニハ訓育等
ノ問題ニモ關係ヲ生ス、身体ハ生理的ノ法則ニヨリテ支配セラレ、
モノナルカ故ニソノ健康ヲ増進スル爲ニハソノ法則ニ則ルコトヲ要
ス、從テ養護ニ於テハ生理學ノ知識ニ依ラサルヘカラス、ソノ他衛
生ノ醫學ノ必要ハ生理學ト殆ト全様ナリ。

例ハハ學校衛生教育病理學等ノ部門ノ生シタルヲ見ルモ明ラカナ
リ。

第四節 社會學、政治學、經濟學等トノ關係

社會學ハ社會ノ本質、組織、現象等ヲ研究スルモノニシテ教育モ
社會現象ノ一ナルカ故ニ兩教育ノ間ニ關係存ス。更ニ之ヲ他ノ方面
ヨリ考フレハ教育ハ一時代ノ *one generation* ノ文化ヲ次ノ時代ニ
傳フルモノニシテ此ノ裏ヨリシテモ教育者ハ社會ニ關係スルナリ
又教育者ハ未成熟者ヲ社會ニ適態セシムルモノナルカ故ニ社會ノ何
タルヤニツキテ考究ヲ要スルコト当然ナリ。
次ニ政治學トノ關係ヲ見ルニ政治學ハ國家ノ目的組織機構等ニツ
キテ研究スルモノナリ而シテ教育ハ國家活動ノ一トレテ見ルコトヲ
得ルカ故ニ政治學ノ一部門ト見ラル、ナリ 例ハハ教育行政之ナリ
次ニ經濟學トノ關係ヲ考フルニ教育ノ進歩ハ經濟生活ノ狀態一制限

セラレ教育ノ實際問題ニ社会事業ノ方面則ハ、貧兒救護、少年労働保護等ノ如キニ於テハ、經濟力教育ト關係セルコトヲ示スモノタラズンバアラサルナリ。又教育事業ハ一面經濟的運営ニヨリテ行ハル、モノナルカ故ニ教育ノ研究ニハ經濟ノ知識ヲ必要トスルコト明ナリ。

以上論スル如ク教育學ハ諸他ノ科奉ト關係ヲ有ス勿論教育學ハ其レ自身独自ノ領域ヲ有スルモノナレ共之ト聯繫セル他ノ科々々知識ヲ基礎トシ又ハ補助トシテ研究スルニアラサレハ完全ナル研究ヲ遂クシ得ハサルナリ。

第七章 教育學研究ノ必要(非難ニ對スレカ評)

第一節 教育學研究無用論及ヒ其ノ批評

教育學ニ對シテ反駁スルモノアリ教育ハ教授スレ專向ノ教科ニツキテ豊富ナル知識ヲ有シソノ上ニ實際教育ノ經驗ヲ積ムハ十分ニ之ヲ行フコトヲ待、大故ニ特別ニ教育學ナルモノヲ研究スルノ必要ナント主張スルモノアリカ、ル見解ハ教育界ニ於テモ主張セラル、所ニシテ此ノ思想ニ對シテ一志ノ批評ヲ試ムヘシ。

第一ニ教育ノ方法ニツキテ考フルニ教授ト訓練トノ二方面ニ分ケテ考フルコトヲ得、先ツ教授ニツキテハ勿論教師力担任スレ教科ニ對シテ豊富ナル知識ヲ有スルコト必要ナレ共夫ノミニテハ教授ノ効果ヲ十分ニ収ムレコト能ハス之ヲ精密ニシムヘハ第一ニ教授スルニ當リテハ教科ノ選取配列ニ注意ヲ要ス此等ハ常識ト經驗トニヨリテナシ得ルニトナリト思フモノアレ共實際ハ然ラズ即チ教科ノ配列選取ハ土地ノ狀況生徒ノ精神發達ノ程度並ニ他ノ教科トノ關係等ヲ考慮シテ決定セサルヘカラサルカ故ナリ。第二ニ教授法ニツキテモ注意セサルヘカラス只常識ト經驗ノミニテハ不十分ナリ、教授ノ方法ニツキテハ吾人ノ則ルヘキ原則即

的ナ心理ノ法則アルナリ、而シテ此カ研究ハ教育者ノ實際心理ノ方面ニ俟タサルハカラス、

第三ニハ教授時間一ツキテモ考究ヲ要ス然レモハ五〇分ノ授業ヲナシソノ後十分ノ休憩ヲナスコトヲ傳統的ニ行ヒタリ、元來授業時間ノ長サ及休憩時間ノ有無等ハ生徒ノ疲勞状態ヲ基礎トシテ適當ニ割出サレ、コトヲ要ス、夫故ニ今日ニ於テハ授業時間ノ長サヲ四五分トシ又休憩時間ノ如キモ五分トセルモノアリ、又ハ全ク之ヲ掃マサル時間ヲ設ケルカ如キモノアリ、而シテ此等ノ徹底的ナル案ハ心理者一基キ教育者力料者的一研究スレヲ要スルナリ。

以上ハ教授ニ因スルニ三ノ莫ニツキテ教育者研究ノ必要ナルコトヲ見タレ夫更ニ訓練ノ方面一ツキテ之ヲ見ルモ全株ナルコトヲ論シ得ルナリ、訓練ヲナスニ当リテハ常識経験等ノ必要ナルコトハ勿論ナレ夫人間ノ品性ノ發達ハ個人ノ性格・個性・自然・家庭・社会等ヨリ影響ヲ受クルコト大ナルモノナルカ故ニ

訓練ハ夫等ノ莫ヲ十分ニ研究調査シテソノ上ニ方策ヲ構ツルヲ要ス從テ訓練ニ因シテモ教育者研究ノ必要アルナリ。

以上ハ教育ノ方法上ノ立脚地ヨリソノ必要ヲ説キタレ夫更ニ教育ノ目的ノ見地ヨリ之ヲ見ルコトヲ得、個人ノ性格ヲ如何ニ養成スルカハ教育ノ目的ノ一ナレ夫之ヲ單一常識ノミニヨリテ決定スレコト能ハサルナリ。必スソコニ Scientific ナル研究ヲ要ス、從テ教育者ノ研究ヲ必要トスルナリ。

第二節 其ノ他ノ教育學研究無用論ニ對スル批評

教育者研究ノ必要ハ前述ニヨリテ略々明カナレ共尚及討論ノ主ナルモノヲアケテソノ批評ヲ試ムヘシ

第一、教育者ハ理論ニ走りテ實際教育ニ余リ用ヲナサス、故ニ教育者ハ實際教育ニ取リテ必要ニアラスト
勿論教育者ハ理論ニ属スルモノニシテ之ヲ教育ノ實際ニ適用

シテ直キニソノ効果ヲ期待スルコトハ、雖モ苟モ教育ヲ改善進歩セシメント欲セハ、何等カノ目標ナカレハ、カラス教育者ハ其ヲ提供スルモノニシテ、實際教育ニトリテ、甚タ必要ナルモノナリ。

第二、教育ハ普遍的ナル理論ヲ述ヘルモノナレハ、實際上ノ場合ニハ、極メテ關係甚キモノナリト反駁スルモノアレ共、凡テ一ノ科、各ノ研究ハ、個々ノ事實ニツキテ研究スルニアラスシテ、寧ろ個々ノ事實ノ中ヨリ普遍ナル原理ヲ見出サントスルニアレナリ。而シテ個々ノ特殊ノ場合ハ、普遍ノ原理ニヨリテ統括セラレ得ルモノニシテ、決シテ無關係ナレモノニアラス。故ニ教育者カ、普遍的ナル事並ニ特別ノ場合ト密接ナル關係ヲ有スルコトハ、両立シ得ルモノニシテ、此ノ批准ハ、當ラサルモノナリ。他面ヨリ考フレハ、一個人ノ經驗ハ、狭クシテ且短キモノナリ。故ニ一個人ノ經驗ヨリ、歸納セラルル、結論ハ、不確実ナリ。教育者ニ於テハ、長キ時代ニ涉リテ且多數ノ人ノ經驗ヲ集メテ其ノ上ニ教育上ノ原則ヲ見出サントスルニアリ。故ニ教育者ヲ考フコトニヨリテ之ヲ考ハサル時、

トスレニアリ。故ニ教育者ヲ考フコトニヨリテ之ヲ考ハサル時、

第四、教育者ハ必スシモ教育ニ堪能ナラス教育者ヲ知ラサルモ、實際教育ニ堪能ナルコトアリ。故ニ教育者ヲ左程必要ノモノニアラスト非難スル者アリ。然レ此ノ非難ハ、論理者ヲ考ハサルモ、識論ニ巧ミナルモノアルカ故ニ、論理者ハ無用ナリトナスト、全權ニシテ一恣尤モノ如クナルモ、此ノ論ハ、只僅カナル特別ノ場合ノミナリ。例証シテ一徹ヲ論セントスルモノニシテ、正シキ論ニアラス勿論教育者ノ知識カ、直ニ其ノ人ノ實際教育ノ手腕ト比例セザルコトアルヤモ知ラス。然レ共教育者ノ知識ヲ有スルモノハ、有セザレヨリモ教育者タルノ資格ニ於テ豊富ナルコト勿論ナリ。以上ニヨリテ教育者ヲ排斥シテ、又個人ノ經驗ノミニ訴ヘテ教育セントスル人ノ誤レレコトハ、明カナリ。

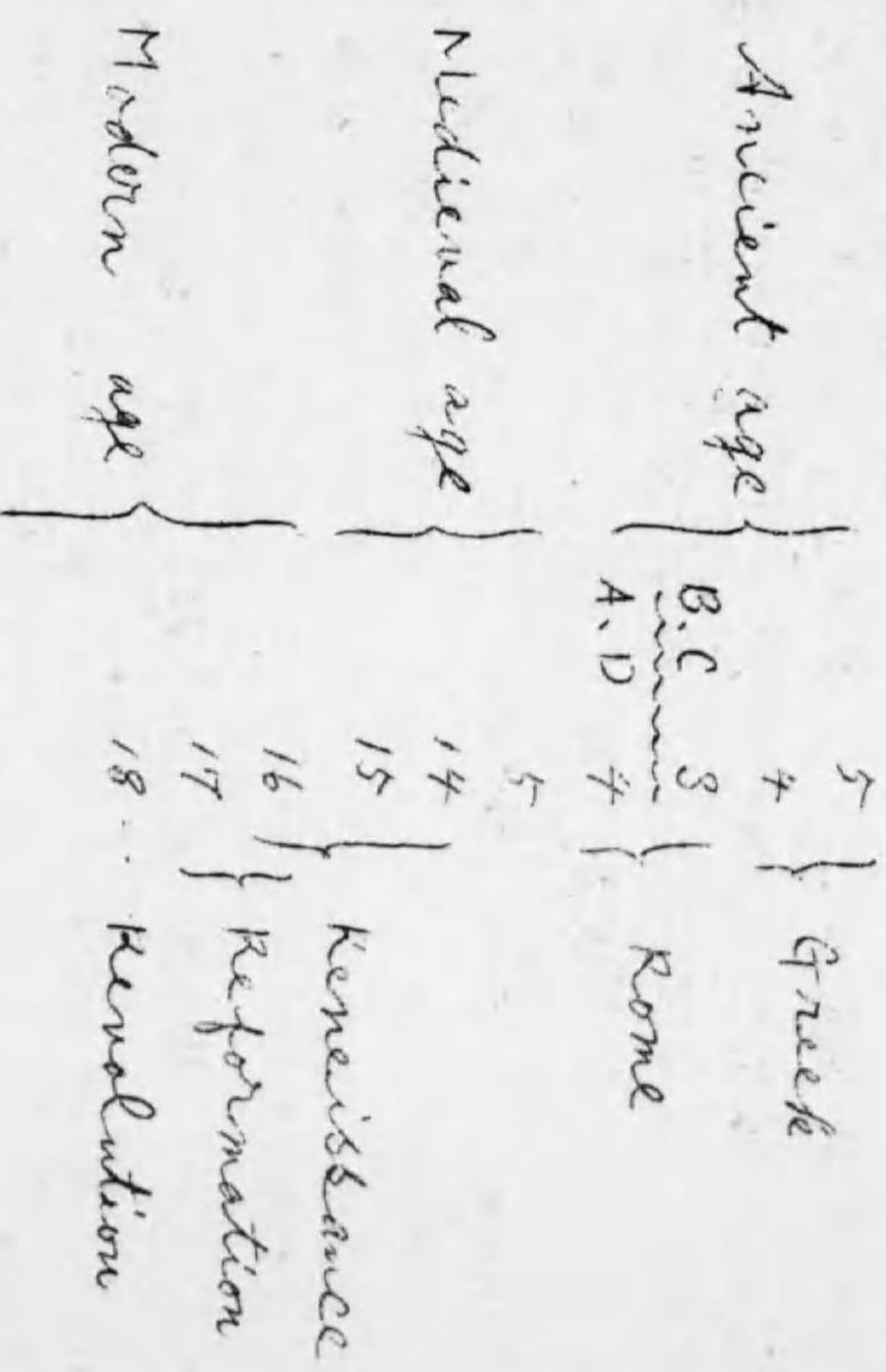
第二編 教育目的論

教育ハ有意的具來的作用ナレコトモ已ニ述ヘタル所ナリ 教育者ニ於テハ其ノ作用ヲ実行スルニ當リテ目標換言スレハ目的理想ヲ確立スルノ必要アリ。即チ目的論ヲ探究スルノ要アレナリ、目的ハ理想ノ如何ニヨルモノニシテ其ノ理想ハ有ル、キ状態ノ觀察ニ外ナラス、而シテ理想ハ抱クヘキ人ノ個性境遇ハ勿論時代ト回トニヨリテ影響セラル、モノニシテ教育ニ因スル理想モ亦然リ、從テ教育ノ目的ニ因シテ七種々ナレ變遷アリ。其故ニ教育ノ目的ヲ論及セントスルニハ過去現在ニ於ケル種々ノ思想ヲ比較研究シ出未得ル假リ独断ヲ避ケテ公平ナル議論ヲナサザルヘカラス。從テ目的論ノ出發點トシテ歴史の考察ヲナスノ必要アリ。

第八章

教育目的ノ歴史の變遷

歴史の考察



11 | Romanticism
 | Positivism
 | Idealism
 20 | Pragmatism
 | etc.

第一節 古代又中世ニ於ケル教育ノ理想

古代ニ於ケル教育ノ理想ハ國家主義ナリト云フヲ得ヘシ。Sparta
 777a ニ於テハ健全ナル身軀剛健ナシ氣性ヲ有スル愛國の武士ヲ造
 ルコトヲ理想トシ國家主義ノ色物最モ濃厚ナリ、アテネ、ローマニ
 ニ於テハ個人ノ自由ヲ認メタルカ故ニハバルタ程ニ國家主義ノ色彩
 濃厚ナラサルモ教育理想ハ理想の市民或ハ國民ヲ養成スルニアリテ
 畢竟國家主義的ト思サレハカラス、其故一古代ノ教育理想ハ一言ニ
 シテ國家主義ナリト云フヲ得ヘシ、又之ヲ他ノ方面ヨリ考察スレハ

古代ノ教育理想ハ道德的ナリト云ヒ得ヘシ、例ハプラトーン、アリ
 ストートルハ道德的ニ教育理想ヲ解スルモノナリ、其ノ莫ハ彼節ニ
 於テ述フヘシ。

次ニ中世期ノ教育理想ヲ考フルハ中世期ハ西洋文化ノ暗黒時代ト
 稱セラル、時代ニシテ、クリスト教全盛ニシテソノ权威ノ下ニ哲學
 科、藝術等ノ一切ノモノカ隷屬セシメラレタルモノナリ、例ハ
 哲學ハクリスト教ノ教義ヲ検証スルノ道具トセラレ科等モクリスト
 教ノ信条ニ斯クノ如クナルカ故ニ教育ノ理想モ又同様ノ傾向ヲ帶ソ
 ルハ当然ニシテ中世期ノ教育理想ハ忠實ナルクリスト教信者ヲ收ル
 コトニアリタルナリ、之ヲ古代ノ國家主義的ナルニ比スレハ中世期
 ハ教會主義的ナリト云フヲ得ヘシ、國家主義ハ社會主義一紐帯上ノ
 社會主義ニアラスニシテ教會主義モ亦一種ノ社會主義ト見ルコト
 ヲ得、從テ古代ニ於テハ政治的ノ社會主義ニシテ中世期ニ於テハ宗
 教的社會主義ナリト云フヲ得ヘシ。

第二節 近世期ニ於ケル教育理想

次ニ近世期ニ於ケル教育理想ニツキテ考フル必要アリ。中世期ノ末一了リテ教会ノ墮落、十字軍ノ失敗等ヨリシテ中世期ニ全盛ヲ成メタルクリスト教ハ次第ニ衰運ニ向フニ至レリ、此ノ時ニ當リ伊太利ニ於テ古代文藝研究復活セリ、此等ノ研究者ハ全ク研究ノ自由ナルヘキヲカ説セルモノニシテ人道主義 (Humanity) ト称スルモノナリ。

而シテ此ノ精神ハクリスト教ニヨリテ束縛セラレタル自我ノ解放ニ外ナラス。或人ハ自我ノ發見ナリトモ云ヘリ、此ノ理想カ宗教界ニ發露シテルニテルニ祭スル宗教改革ノ運動トナリ更ニ政治界ニ活躍シテハ封建制度ノ專制政治ニ対スル反抗トシテノ政治革命ノ運動トナレリ。例ハハ英國ニ於ケル革命アメリカニ於ケル独立、仏口大革命ノ如ク何レモ其ノ例証ナリ、斯クノ如ク文藝復興、宗教改革

政治革命ノ三種ノ運動ノ根本精神ハ中世期ノ一千年ヲ通シテ束縛セラレタル自我カ露ク脱シテ自由ヲホムントスルニアリタルナリ、然レ近世期初頭ノ思想ハ極端ナル個人主義トナレリ、例ハハ十八世紀ニ於ケル啓蒙運動ノ如キハ個人ノ理性ヲ尊重シ知識ヲ明カニスルコトヲ目的トシタルモノニシテ個人主義ノ色彩ヲ帯ヒタルモノナリ。カントノ思想ノ如キハ理性ヲ尊重スルモノニシテ一ノ個人主義ト見ラルルナリ。十九世紀ニ至リテ啓蒙思想ニ対スル反動起レリ、即チ理性ヨリ感情ヲ高調スル所ノ思想ナリ、或ハ又宗教的道德的ナル傾向ヲモ有ス、此レ Romanticism ノ思想ナリ、此ノ種ノ教育理想ハ美育ヲ尊重スルノ風アリ、然ルニ十九世紀ノ後半ニ至リテ Positivism (実証主義) ナルモノ起レリ。

此ノ主義ハ Science ノ進歩ニ依カサレテ起リタルモノニシテ Science ノ実証的精神ヲ高調スルモノナリ。故テ生物學、社會學等ノ研究ニヨリテ社會國家ノ有機的関係カ明カニナリテ個人主義ト社會主義トヲ調和的ニ見ル思想發達セリ。

又輒此ニ於テハ種々ノ主義カ並ヒ唱導セラル、モノアリ、例ハハ人格的教育説、公民教育説、美的教育説等ノ如キ是ナリ。此等ノ説ニ用スル詳細ノ事ハ後ニ論スヘシ。
以上述ハタル所ハ極メテ概括的ナル叙述ニシテ此ノミニテハ頗ル不十分ナルカ故ニ教育ノ理想ニ関スル諸説ハ後ニ詳述シ今ハ只之カ概観ヲ述ヘタルニスキサレナリ。

第九章 教育ノ目的ニ関スル諸説並ニソノ批評

第一節 實際主義

第一項 實際主義ニ関スル諸説

此ハ現實ノ生活ヲ完全ニナシ得ル人ヲ作ルヲ以テ教育ノ目的トナスモノナリ。換言スレハ社会ニ立チテ世渡リヲ完全ニナシ得ル人ヲ

作ルコトヲ目的トスルモノナリ。

此ノ思想ハ古クハスパルタ、ローマ等ノ教育思想中ニモ現ハレタレ共近世ニ至リテハ功利主義ノ教育説ニ於テ之ヲ見ルコトヲ得、又近世ニ於テハ Spencer ノ生物の實利的教育説又現代ニ於テハ *Alton Packer* 實用主義ノ教育説ニモ之ヲ見ルコトヲ得、概シテ此ノ思想ハ英米ノ教育説ニ共通セル如ナリ、併シドイツノケルセンシエタイナーノ公民教育ノ主張ノ如キモ然リ。

次ニ此ノ主義ノ代表者ニツキテ二三ノ例ヲ挙クレハ功利主義ノ代表者ト見ルヘキ *John Herdell* ノ考ニヨレハ教育ノ目的ハ知徳ノ練磨ヲナシテ世ニ起シテ有用ナル人ヲ作ルニアリトセリ、此ノ考ハ英國民カ教育ハ紳士ヲ養成スル所ノ方法ナリトナセル思想ヲ代表セルモノナリ次ニ *Spencer* ノ考ニヨレハ教育ノ目的ハ完全ナル生活ノ準備ヲナスニ下リト而シテ之ヲナスカ為ニハ科學的知識ヲ授クルコトヲ重ンセサルヘカラスト又氏ハ知識ノ便値ヲ次ノ如ク五階級ニ分ナタリ

第一ハ自己保存ニ必要ナル知識

第二ハ生活ニ必要ナル知識

第三ハ子女ノ教育ニ必要ナル知識

第四ハ公民トシテ必要ナル知識

第五ハ余暇ノ慰安ニ必要ナル知識此レナリ

之ニヨリテ見レハ氏力実用的科々の知識ヲ重シ又李美術宗教等ノ如キ精神的方面ヲ輕視セルコト明カナリ、此ノ如ク科々知識ヲ重スル所以ハ十九世紀ニ於ケル科々主義ノ時代思想ニ基調セルモノナリ、最後ニ Pragmatism / 教育論ノ代表者トモ見レハキ

John Dewey / 考ニヨレハ教育ノ目的ハ社会状態ニ対スル調整ナリ、而シテ知識技能ハ經驗ニヨリテ作ラレサルヘカラストシテ自働主義ヲ鼓吹セリ、又氏ハ從來ノ教育力余リニ個人主義的ニシテ科々ニ於テ教授スルコトカ實際社会ニ殆ト初用ヲ表ハサス、此ノ如クハ畢竟努力ノ労費ニ滞スルモノナリ、故ニ各校教育ハ社会的見地ニ立テテ實際ニ適応シ得ル様有效ニ教育セラレサルヘカラサルヲ主張

セリ、

以上ノ例ニヨリテ考フレハ實際主義ノ教育目的ハ現実ノ社会生活ニ大ナル便値ヲ附スルモノナリ

第二項 諸李説ノ批評

以上ノ如ク人ニヨリテ多少説明上ノ相違ヲ有スレ共現実ノ生活ヲ尊重シテ實際ニ適スル人間ヲ作ルコトヲ以テ教育ノ目的トスル莫ハ一致スル所ナリ、以下少シク之カ論評ヲ試ミン、批評ニ先テ此ノ主義カ理想トセル所ノモノニツキテ便値ノ考察ヲナスコトヲ要ス、便値トハ畢竟吾人ノ要求ヲ満足セシムル性質ニ外ナラス、此ヲ大別スレハ二種トナス、一ハ現実ノ生活ニ於ケル衣食住或ハ習慣法制度技藝等ノ如キモノヲ要求スル所ノ便値ニシテ此ヲ總称シテ實際的便値ト称スルコトヲ得、然レニ之ニ対シテ科々、道德、藝術、宗教ニ対スル要求ヲ著スル所ノ便値ハ精神生活ニ因スルモノニシテ之ヲ理想の便値ト称スルコトヲ得、前者ハ *etc.*ニ因スル便値ニシテ後者ハ

此ノ西種ノ價值ハ等シク人間生活ニ取
リテ重要ナルモノナリ、實際主義ハ實際的價值ヲ偏重シテ理想的價
値ヲ輕視スルノ弊ニ陥リシモノナリ、勿論衣食住ニ因スル物質生活
ハ吾人ニ取リテ重要ナルコトハ論スル處モナケレ共眞善美醜ニ因ス
ル精神的生活ヲモ重要ナルコトハ見逃スヘカラス、換言スレハ物質
文化ト精神文化トハ之ヲ合セ有セシメサルヘカラス、此ノ如ク考フ
ル時ハ此ノ說ハ價值ノ一面ヲ捕ヘテ他面ヲ見サルモノナルカ故ニ教
育ノ全体的目的ヲ樹立スル說トシテ不完全ナルモノト云ハサルヘカ
ラス。

第二節 理想主義

理想主義ハ實際主義ニ對スルモノニシテ實際主義カ實際的價值ヲ
重ンジ實際的効ニ囚ハレテ精神生活ノ方面ヲ輕ンスルト反對ニ理想
主義ハ理想的價值ヲ尊重シ實際ヲ輕視スルノ傾向ヲ有スルモノナリ

吾シク理想主義ト稱セラル、モノ、中ニモ自ラ說ク所ニ相違アリ、
道德的ナルモノ、宗教的ナルモノ、美的ナルモノ等之レナリ、之等
ノ區別ハ理想的價值ノ如何ナル歟ニ中心ヲ置クカニヨリテ生スルナ
リ以下順文之等ノ諸說ヲ考察セントス

第一項 道德的理想主義

教育ノ目的ヲ道德ニ置クモノニシテ品性陶冶ヲ以テ教育ノ主目的
トナスモノニシテ此ノ主張ハ古代ニ於テハプラトーン、アリストー
トル等ノ教育說ニ之ヲ見ルコトヲ得、彼等ノ教育說ハソノ形式ニ於
テハ國家主義的ノモノナレ共其ノ内容ニ於テハ道德的完全ナル人ヲ
作ルコトヲ以テ目的トナスモノナリ

次ニ中世紀ノ教育說ノ形式ニ於テハ宗教的ナレ共内容ニ於テハ道
德的ナリト稱スルコトヲ得更ニ近代ニ於テハ Kunt, Herbart
Fenster 等ノ說ニ見ル所ナリ、殊ニ Herbart 極端ナル品性陶冶
主義ヲ唱ヘタル歟ニ於テ此ノ主義ノ代表者トモ目スヘキモノナリ、

故ニ Herbart ノ考ニツキテ述フレハ

ハルバルトニヨレハ教育ノ目的ハ品性陶冶ニヨリテ教育上ノ手段
ハスヘテ其ノ目的ヲ達スル方便ニスキサルモノナリ。故ニ氏ノ説フ
品性陶冶主義ト称ス。然ラハ目的トスレ品性トハ如何ナルモノヲ指
スヤト云フニ次ノ如キ五種ノ道德的觀念ヲ所有シ其ニ支配セラル。
所ノ意思ヲ (will) 養成スルニアリトナス。五種ノ道德的觀念ト

- 第一、内心自由ノ觀念
- 第二、完全ノ感念

一人格内ノ二個ノ意思(欲望)
總ユル道德ニ対シ申スラツケス明瞭ナル
觀念ヲ持ツ

- 第三、好意ノ觀念
 - 第四、正義ノ觀念
 - 第五、公平ノ觀念
- 自他意思ノ共存調和
自他人格ノ対立

ニシテ之ヲヘルバルトノ五道念ト称ス

此ヲ批評セハ此ノ主義ハ余リニ道德ヲ偏重シテ教育ノ他ノ方面ノ
目的ヲ輕ンスルノ欠点アリ。勿論人カ品性ヲ完成セサルヘカラサル
ハ論スルヲ要セサレトモ教育ニハ道德以外ニ知識技能、藝術、宗教
身体ノ健全等ノ種々ノ要素必要ナリ。然ルニ此ノ主義ハ品性陶冶ニ
重キヲ置キ其等ノ諸点ヲ輕視スル完全ナル意味ニ於テ道德生活ヲサ
サントセハ身体ノ健全、知識技能ノ豊富、信仰趣味ノ教養等ヲ必要
トス。此等ヲ輕視シテ單ニ道德的一面ノミヲ偏重スル事ハ畢竟、道
徳生活ノ破綻ト云ハサルヘカラス。是レヘルバルトノ説カ偏狭ナル
モノトシテ非難セラル。所以ナリ。然シテラ前述ノ如ク道德ヲ無視
シテハ教育ヲ論スル事欲ハスシテ品性陶冶カ少ク共教育目的中ニテ
重要ナルモノナルコトハ言ヲ俟タサルナリ。然シテラヘルバルトノ
説ハ教育全般ノ目的論トシテハ不十分ナリト云フヘシ。

第二項 宗教的理根主義

此ハ宗教生活ヲ以テ人間生活ノ最高理想トナスソノ宗教生活中ニ
テ最高ノ目標トナルモノハ神 *god* ナリト考フルナリ。之ヨリシテ
教育ノ目的ハ人ヲシテ神ニ近ツカシメントスルナリ。即チ神的人格
ヲ作り上ルコトヲ教育ノ目的トスルモノナリ。カ、ル思想ハ宗教ノ
最モ優勢ナル時代ニ行ハルヘキコトハ当然ニシテ中世紀ノ教育思想
中ニハ豊富ニ現ハル、所ナリ。

前述ノ如ク中世紀ハクリスト教ノ全盛時代ニシテ哲李科亦文藝等
スヘテカクリスト教ノ為ニ存セシナリ。従テ教育モ亦宗教ノ為ニ存
シタルコトハ言テ俟タサレナリ。

基督教々育ハ現世ノ生活ノ準備ニアラスシテ死後天国ニ生ル、ノ
準備ニ外ナラス、故ニ超世目的ニシテ甚ダシク實際主義ト遠サカル
モノナリ。而シテ德育ヲ重ンジ知育ヲ第二位ニ置キ体育ノ如キハ殆
ンド省ミザリシナリ。

次ニ此ノ主義ノ主張者ノ一ニノ意見ヲ参考ノタメ述フヘシ。
Comenius (コメニウス) 氏ハ人生究極ノ目的ハ天国ニ於テ神

ト共ニ生活シ永遠ノ幸福ヲ受クルコトニアリテ現世ハ畢竟ソノ準備
タルニ外ナラストナン人生ヲ三階段ニ分ケテ考ヘタリ。

第一、胎内生活、第二、地上生活、第三、天国生活、此レナリ。

此等ノ人生ノ三階段ニ於テ始メノモノハソノ次ノモノハ予備トナス
モノニシテ最後ノ理想ノ生活ハ天国生活ナリト考フルナリ。尚地上
生活ニ於テ行フ所ノ教育ハ各段ノ修養、品性ノ陶冶信仰ノ確立ヲ考
フルナリ。而シテ第三ノ信仰ノ確立ヲ最モ重要ナリト見ルナリ。次
ニ今一人ノ此主義ノ代表者、シテ *Schleiermacher* 氏ノ考ヲ述フ
ヘシ。氏ノ考ニヨレハ神ハ生活統一ノ源泉ニシテ一切ノ矛盾衝突ハ
神ニヨリテ統一セラル、ナリ。而シテ神ノ認識ハ絶対智ナリ。到底
善悪ノ認識ヲ以テシテハ遠スレ故ハサルモノナリ。即チ宗教的感情
ニヨリテノミ知り得ルモノナリ。而シテ此ノ宗教的感情ハ精神生活
ノ中心ヲナスモノニシテ又精神生活ノ極致ナリ。此ノ如キ宗教生活
ハ最モ優レタル生活ナリトシテ宗教至上主義ヲ唱ヘタリ。カ、ル思
想ノ基礎ニ立テハ教育ノ目的ハ宗教生活ノ完成ヲ理想トスルモノナリ

以上ノ如ク宗教主義ハ宗教生活ヲ以テ教育ノ理想トナスモノナリ
 夫此ノ外ニ人生ニ於テハ道德・藝術等ノ如キ精神生活カアリ、又衣食住ニ関スル實際生活アリ、然ルニ宗教主義ハ宗教ヲ偏重スルノ結果此等諸多ノ生活方面ヲ輕スルニ陥ラシメ、然レ共宗教ノ要求ハ人間本性ノ一面ニシテ此ヲ陶治スルコトハ確ニ教育目的ノ一部分タルヲ失ハサレナリ、然レ共教育全般ノ目的ノ基礎トナスコトヲ得サレナリ、夫故ニ宗教主義ハ教育目的ノ一部分ヲ占ムルモノトシテ考フル外ナキナリ。

第三項 美的理想主義（藝術的）

此ノ主義ハ美又ハ藝術ヲ以テ教育ノ原理トナスモノナリ、云フ迄モナク此ノ主義ハ宇宙・人生ヲ藝術的ニ見レモノニシテ而シテ美ハ宇宙人生觀ハ人間ノ直感・感情ヲ基礎トシテ構成セラル、哲學家ニシテ主情主義ヲ執ルモノナリ、前ノ宗教主義ト相似タル所アリ

教育史上此ノ主義ヲ唱ヘタレモノヲ見ルニ古代ニ於テハギリシヤニ於テ此ノ見ルコトヲ得、プラトニハ道德的國家主義ヲ唱ヘテ國家ハ善ヲ實現スルモノナリトナセレカソノ善トハ諸徳ノ調和シタレ状態ニシテ即チ美ノ状態ナリ、即善即美ノ為ナリ

此ノ外ナリシヤノ美術ノ發達等ヲ見レハ當時ニ於テハ美的思想ノ盛ンナリシヲ見ルヲ得、降リア十五・六世紀ニ於テハ文藝復興ト全時ニ人道主義（人文主義）ナルモノ表ハレテ古代ノ文藝ヲ復興セシメタリ、從テナリシヤ當時ニ於テハレタル美ニ對スル要求モ復シテ當時藝術ノ復興ヲ見タリ、然レテ美的理想主義ノ最も著シク現ハレシ時代ハ十九世紀前半ニ於ケル Romanticism ノ思想ナリ、此ハ十七・八世紀ニ亘リテ行ハレタル自然科學ノ發達ト共ニ主張セラレタル理性主義又主知主義ニ對シテノ反動トシテ起レルモノニシテ極端ニ感情ヲ尊重スルモノナリ、夫等主義者ノ中代表者ハ Schiller, Herder, Schelling, Hegel 等ノ如キナリ

シレル氏ノ説

次ニシレルノ説ニツキテ述フハシ、彼ノ唯美思想ハ Kant ノ
 考ヘヨリ生レタルモノニシテ Kant ハ人間性ヲ元始ニ解シ一方
 ニ理性ヲ立テ他方ニハ感性(内)ヲ対立セシムルナリ、而シテ理性
 ニヨリテ感性ヲ克服スルコトカ道徳行為ナリトナシ、遂ニ禁欲主義ヲ
 取ルニ至レリ、シレルハ詩人ナルカ故ニ感性ノ本質ニ通セルカ故
 ニカントノ如ク感性ヲ輕ニスル事ニ反対シ感性ト理性ト即チ靈肉ニ
 元ヲ調和シテ説キタルナリ、人間自然ノ感性カ自ラ理性ニ一致スル
 所ノ靈肉融合ノ状態ヲ美魂 *Schöne Seele* ト称シタルナリ
 Kant ニ於テハ理性ニヨリテ感性ヲ屈服スルコトニヨリテ善ヲ実
 現シ得ルニ対シシレルハ兩者ノ自然ニシテ且自由ナル調和ヲ説キ
 之ヲ美ナリトセリ、故ニ彼ハ美ハ善ヨリモ一層高キ人生ノ理想ナリ
 トスルニ至レリ、以上ハシレル氏ノ唯美思想ノ一端ナリ、

Hegel 氏

ハレデレニ依レハ理性ノ外ニ想像、感情、情緒等ノ精神的方面
 ハ寧ロ理性ヨリカモ一層深キモノニシテ人間性 *Human nature*
 ノ中樞ヲナスモノナリ、而シテ此ハ人間性ノ最も尊嚴ナル所以ニ
 シテ他ノ何者ニモ換フル能ハサルモノナリ、カ、ル人間性ハ無限
 一發展シ活動セントスル不可思議ノ力ナリ此ク感情ヲ高調シテソ
 ノ方面ニ人間性ノ價値ヲ唱へ、遂ニ自我ハ天才ナリトスフニ至レリ
 ナリ、此ノ意ハニイチエ (*nietsytsche*) ノ超人主義ト相似タルモ
 ノナリ、

Schelling 氏

シエリングニ依レハ藝術至上主義ナリ、彼ハ藝術ノ直觀生活ニ
 人間最高ノ生活ヲ見出サントスルナリ、ソノ根本動機トスル所ハ
 現実世界ニ於ケル不調和即チ理性、感性、道徳ト感情、精神ト自
 然等ノ間ニ於ケル不調和ヲ脱却シテ非現実的ナル調和アレ理想ノ
 世界即チ藝術ノ世界ニ道遙スルコトヲ以テ最高ノ生活ナリトスル

ニアリ。

以上ノ如キ藝術的ノ理想主義ノ説ハ余リニ主情的且非現實的ニシテ精モスレハ現實生活ト矛盾スルニ至ルノミナラス又一面ヨリ考フレハ人間ノ精神生活ニハ藝術以外ニ道德、宗教ヲ要求スルノ性質アリテ教育ノ目的ハ夫等ノスヘテノ要求ヲ包括スルモノナラサルヘカラス、然レニ藝術的理理想主義ハ藝術方面ノミテ高調シテ他ノ方面ヲ閑却スルカ故ニ教育全般ノ目的トシテハ偏狭ナルモノト云ハサルヘカラス

シルレレ等ノ如キ考ハ duty (一義)ニ對スル一ノ考ヘ方ニシテソノ思想ノ起源ハ十七、八世紀ニ於ケル理性主義ニ對スル反動トシテナリ、從テ理性ヲカ説シテ感情ヲ輕視セルニ對シソノ欠陥ヲ指摘スル實ニ於テ見ルヘキ所ナキニシモアラサレ共教育目的トシテハ成立スヘキモノニアラス

第四項 人格主義

人格主義、独一人ノ理想主義ヨリ来レ。此ノ主義ハ十九世紀後半ニ於ケル科李万能、物質尊重ノ思想ニ對シテ独乙ニ固有ナル理想主義精神主義ニ基キテ起レレモノニシテ教育ノ目的トスル所ハ人格價值ノ發揮ニアリトスルナリ、釋シテ人格主義ト称スルモノノ中ニモノノ立場ニヨリテ種々ノ意見アリ、例ヘハ宗教的立脚地ヨリスルモノニハオイケン *W. O'Connell* ノ宗教哲学ノ流レヲ汲ムモノアリ、彼ノ思想ハ物質文明ノ弊ヲ痛撃シ精神生活ヲ高調スルモノニシテ然モソノ精神生活ハ宗教生活ニアリトスルナリ。換言スレハ宗教至上ノ思想ト云ハサルヘカラス、其ノ外藝術的方面ヨリ人格主義ヲ唱フレモノ又道德的方面ヨリ唱フレモノモアリテ此ヲ詳細ニ論スレコトハ此ニ省恩スレ共已ニ述ヘタル所ニヨリテソノ如何ナルモノナルカハ想像スルニ難カラス

第三節 理想主義と實際主義の調和

教育 第一動機ハ教育者ニ實際生活ノ準備ヲナシ知世ニ致スツ
 様ニスルニアルニトハ見易キ事ナリ、實際主義ノ人ハ此ノ見地ヨ
 リシテ教育ノ目的ヲ眺ムルニアリ現代ノ如ク文化ノ進ミタル時代ニ
 アリテハ社会ハ甚タ複雑トナリ生活ハ益々困難トナリツ、アルナリ
 然テ所ニ生存競争ニ堪エシメタムニハ身心ノ諸カヲ兼重セシメ
 サルヘカラス、即チ一方ニ於テ健全ナル身体ヲ造リテ克ク競争ニ堪
 ヘ得シムルト共ニ精神活動ノ健全ナル基礎ヲシメサレハカラス、
 此ノ莫ニ体育ノ必要ナル所以アリ、又他方ニ於テハ觀察、記憶、想
 像、推理等ノ精神カヲ精緻鋭敏ナラシムルコト必要ナリ、此ノ如ク
 生存競争ナル考ヘノ下ニ實際生活ノ準備ヲ莫アルコトカ教育ノ目的
 ナリトスルコト、確ニ一面ノ真理ヲ有スレ夫此ハ一面ニ偏シタルモ
 ノナリ、ソノ莫ハ生存競争ニツキテ考フレハ明カナリ、試ニ實際生

活ノ生存競争ヨリ如何ナル弊害カ起レマト云フニ例ヘハ身心過勞ノ
 結果神經衰弱ノ如キ文明病ヲ生シ又生存競争ニ失敗シタルモノハ失
 望悲觀ニ陥リ或ハ又反社ニ成功シタルモノハ倦怠偷奢ノ風ヲ生スル
 ナリ、此ク生存競争ノミニヨリテ人生ヲ解セハ種々ノ不調和、不幸
 事ハ必至的ナモノト考ヘラレ、人生ノ意義ハ不明トナルナリ、思フ
 一カ、ル現象ハ生活ノ為競争ノ為ニ働イテ何ノ為ニ生存競争ヲナス
 カカ考ヘラレス。然テ活動ハ無意味ナラサルヲ得サルナリ、此ニ於
 テ生活ハ何故ニ價值アリヤ、競争ノ何レニ理由アリヤノ問題起ルナ
 リ、此ノ問題ヲ理解スルニハ理想ヲ考ヘサレハカラス、理想ヲ考フ
 ルコトニヨリテ人生ニ價值ヲ與ヘ生存競争ニ内容ヲ與ヘ得ルナリ、
 此ノ如ク實際生活ノ要求ハ当然ニ理想生活ヲ要求セサルヲ得サルナ
 リ。

宗教ハ人ニ安心立命ノ境地ヲ與ヘ人生ヲシテ價值アルモノヲラシ
 メントセリ、人ハ只物質生活ノミニ依リテハ満足スルニト欲ハスレ
 テ一方ニ幽玄ノ境ニ遊ブ折ノ靈的生活ヲ要求スルモノナリ、何人ト

或程度ニ於テ何程カノ宗教性ヲ帯ヒサルモノナシ、而シテ宗教
 的信仰カ人生ヲ淨化シ直徳的志カトナル場合多シ、或ル論者曰ク、
 現代ノ物質主義ハ無宗教ノ結果ナリト此ノ言ハ體カニ一面ノ眞理
 ナリ、故ニ宗教的憧憬ヲ望ムニスルコトニヨリテ人生ヲ美化シ淨化
 スルコトヲ以テ教育ノ目的ノ一部分トナサザルヘカラス。
 次ニ直徳ニツキテ考フルニ人ハ實際生活ヲ全クマサレヘカラサル
 ガエテナスニ當リテハ經濟的ノ種々ノ要求起リ又奴勞名譽、地位等
 ニ關レテモソコニ競争力起リテ不合理不平ノ生スルヲ免レズ從テ單
 ナル實際生活ノ生存競争ヲ意トスルニ於テハ煩悶苦惱ヲ生スルヲ免
 レサルナリ。此ニ於テカ人生ノ意義目的ハ却テ存スルマ、之ヲ達
 成スルノ方法ハ如何ナルヘキカ等ノ問題ニ到達シ之ヲ解決セシコ
 トヲ要求スルニ至ルハ當然ナリ、此ノ如ク人ハ當為ニ因スル要求
 起リテ之ヲ滿足セシムルコト必要ナリ、此ノ如ク實際生活ノ要求ハ
 當然ニ直徳ヲ求ムルコト、ナルナリ、夫有ニ教育上直徳ヲ陶冶スル
 コトヲ目的ノ裡ニ考ヘサルバカラサルコトハ必然ノ理ナリ、最後ニ

藝術ニツキ考フルニ人カ單ニ實際生活ノミヲ尊重シテ實利實益ノ
 ミヲ目的トスルナラハ社会ハ墮落タルモノトナリテ物質主義、自
 然主義等ノ弊ニ陥ルニ至ルヘシ、カ、ル弊風ヲ脱シテ高尚ナル趣
 味ヲ抱カシメ一方ニ於テハ現實生活ノ苦惱ヲ慰ムルト同時ニ他方
 ニ於テハ情味ニ益レタル典雅ナル生活ヲ味ハシメンカ為ニハ藝術
 的ノ趣味ヲ涵養シ美的情操ヲ陶冶スルコト必要ナリ、例ハハ詩歌
 繪画、音樂、演藝等ニ因スル趣味性ヲ涵養スルコト必要ナリ、此
 ノ如ク實際生活ヨリ公認シテ藝術生活ヲ要求スルニ至ルナリ。
 以上述フル所ニヨリテ現實ノ社会生活ニ有用ナル人ヲ作ルコト
 カ教育上ノ必要ナルコトヲ論シ更ニ此ノ一方面ニ偏シテハ生活ノ
 意義便値ヲ没却シ結局不幸ナル又秋風景ナル結果ヲ生スルノ恐レ
 アルカ故ニ宗教、直徳、藝術ノ如キ理想の方面ノ精神生活ヲ味ヒ
 得ル様ニ教育ノ目的ヲ考ヘサルヘカラサルコトヲ述ヘタルナリ。
 然レテ理想主義ニ偏スル時ハ實際生活ニ迂遠ナルノ弊ヲ生ス
 ルナリ、例ハハ宗教ヲ偏重スル時ハ超世的、隱微的トナリテ現實

社会ト相容レサレ傾向ヲ生シ又藝術ニ於テモ全様ニシテ此ニ偏スル時ハ感情生活ノミヲ高調シ一步譲レハ本能満足主義ノ如キニ墮スルニ至レハシ、之ヲ要スルニ教育ノ目的ヲ定ムルニ当リテハ理想ト實際トノ両面ヲ調和シテ考テルコトニ必要ナリ。

夫故ニ前述セル如キ等說、思想ハ何レモ部分的ノ真理ヲ有スルモノニシテ之等ヲ綜合調和スルコトニヨリテ完全ナル教育ノ目的ヲ定メ得ルモノト信スルナリ。

知……實際主義
情……宗教藝術
意……道德
理想主義

第四節 個人主義

第一項 個人主義ノ意義

此ノ主義ハ個人ヲ唯一ノ實在トナシ個人ヲ以テ一切ノ中心トナシ個人ノ發展 完成ヲ企圖スルモノニシテ即チ個性ヲ尊重シソノ自由ナル發揮ヲ目的トスルモノナリ 而シテ此ノ主義ハ社会主義ニ対スルモノナリ、但シ茲ニ社会主義ト云フハ所云今日ノ經濟上ノミニ因スル狭義ノ社会主義ヲ指スニアラスシテ本義ナル本義ナリ意味ニテ使用スルナリ。個人主義ハ個人对社会ノ關係ニ於テ個人アリテ社会アルモノトナシ、社会ノ組織制度ノ如キモノハ全然個人ノ安寧幸福ノ為ニ存スルモノナリトナス、一若ニシテエフスハハ社会ハ個人ノ方便トシテ、ミ存スルモノナリ 故テ社会的ノ板威或ハ拘束ニ対シテ反抗ノ態度ヲトルモノナリ。

第二項 歴史的 發展

個人主義的ノ思想ハ古代ニ於テハ Sokrates (蘇格拉底) 一教ノ主觀主義ニ見ルコトヲ得即チ彼等ハ人ハ万物ノ大度ナリト信シテ凡テ

ノ認識ノ終局ヲ個人ニ置キタルナリ。
 中世紀ニ於テハクリスト教ノ平等博愛ノ思想行ハレタルカ此ハ
 個人ヲ本位トスルモノニシテ個人主義的ノ思想ト云ハサレヘカラ
 ス。然レニクリスト教カ漸次隆昌トナルニ從ヒテ教義ヲ以テ個人
 ノ自由ヲ承認スルニ至リシナリ。此ハクリスト教ノ本來ノ個人主
 義思想ニ及スルモノト云ハサレハカラス。近世期ノ初メニ當リテ
 個人ノ自覚カ高マリ凡ソノ權威ニ對シテ解放ヲ要求スルニ
 至レリ。今則チ思想ノ方面ニ於テハ文藝復興トナリ。此カ他ノ方面
 ニ移リテ宗教改革トナリ政治革命トナレルナリ。宗教ニ於テハ神
 ノ前ニハ個人モ平等ナリトシテ教義ニ反抗シ政治ニ於テハ自然
 或ハ天赋人權說現ハレ人ハ生レテ自由平等ナリト主張
 シテ封建君主ノ專制ニ反抗スルニ至レルナリ。又一方哲學思想ノ
 方面ニ於テハ大哲 Kant 出デテ人同本位ノ思想ヲ鼓吹シ人格ノ
 尊嚴・人格ノ絶対價值ヲ高唱セルアリ。此ノ如クニシテ十七・八
 世紀ニ於テハ普ク自由主義理性主義ニ立脚シタル個人主義唱ヘ

ラレタルナリ。十九世紀ニ至リテハ個人主義ノ反抗ナル社会主義
 的ノ思想起ルニ至リタレ共個人主義思想ハ依然トシテ今日モ尚唱
 尊セラレツ、アリ。英米ノ功利主義ノ思想又最近ニ於ケルデモク
 ラシイノ思想ノ如キモ個人主義的ノ思想ヲ含ムモノナリ。
 個人主義ヨリ教育ノ目的ヲ見タルニ三ノ代表的意見ヲ述ヘン。
 ルーテル (Luther) ハ宗教改革ノ鼻祖トシテ著名ナル人ナリ。
 彼ノ思想ハ旧基督教ノ束縛ヨリ個人ヲ解放セントスルニアリテ教
 育ノ方面ニ於テモ個人ノ自由ヲ尊重シ人格ノ發揮ヲ以テ教育ノ目
 的トスルナリ。彼ノ時代ニ及ハレタル教育ハ地位階級等ノ為ニ甚
 タ不均等ノ状態ニアリキ。此ノ弊風ニ對シテ教育ハ男女ノ性貧富
 ノ懸隔・階級ノ差別等ニヨリテ制限セラレズシテ何人トモノ
 自由ナル人格ヲ發揮スル為ニ教育ヲ受ケサレヘカラサルモノトシ
 テ口兵普通教育ノ必要ナル所以ヲ唱導セルナリ。此ノ英ニ於テ彼
 ハ著名ナリ。

★ニ Rousseau ツキテソノ個人主義主張ヲ考フルニ彼ハ

最モ極端ナル個人主義ノ代表者ナリト云フヘシ、彼ニ依リハ文明ハ人間墮落ノ産物ニスキサルモノニシテ現世ハ墮落ノ腐敗セルモノナリ、夫故ニ教育ハ必然的ナル文明ヲ有スルモル況社会ヨリ分崩シテ各個人ハ神ヨリ得タル所ノ人間ノ本性ヲソノ儘發揮セシメサルヘカラス、然モ此ノ本性ノ中ノ最モ重要ナルモノハ理性ナリ、其故ニ理性ヲ培養スルコトハ人ノ人タル所以ノ價値ヲ發揮スルニアリテ教育ノ目的ハ此ニ存スト主表スルナリ、約言スレバ彼ハ全ク社会ヲ無視シ個人ヲ尊重シテ自然主義、合理主義ニ立テテ教育ヲ論スルモノト云ハサルヘカラス

チレソル Ziller氏ニヨレハ教育ノ目的ハ個人以外ニ求ムルコトハ不可ナリ、個人ノ受ケタル影響カ社会ニ對シテ善影響ヲ及ボシ此ヲ進歩セシムル莫ニツテハ教育者ハ何等考フルノ必要ナキナリ、寧ロ夫等ハ政治上ノ事ニ属スルモノナリ、此ノ如ク教育ノ目的ハ社会ヲ對シテ全ク個人ノ本位トシテ考ヘラレサルヘカラスヲ説キタルナリ。

ニ一チエ (Niezsche)ハ超人主義或ハ天才主義ヲ唱ヘタル莫ニ於テ有名ナリ、彼ハ人間ヲ自由平等ナリトナス所ノクリスト教等社会主義ノ道徳ニ反對シテ個人ハ不平等ナルモノトナシソノ價値ヲ極度ニ發展セシメサルヘカラスト主張シソノ中ノ最モ傑出セル人ヲ超人ト名ツケタルナリ、人間ノ歴史ハ超人ニヨリテ作ラレ、モノニシテ一般愚衆ハ天才出現ノ手段タルニ外ナラス、又人格的ニ勝レタル優勝者ハ劣等ナル多数民衆ヲ支配シ之ヲ統率スルモノニシテ多数民衆ハ少数ノ天才ニ指導セラレテ始メテ生活シ得ルナリ、從テ治者被治者ハ明白ナルモノナリ、此ノ如ク個人主義ニ立テ積極的ナル肯定的ナル生活ヲ高揚シ清極主義、否定主義ニ反對スルナリ。

第五節

社会的教育説

第一項 個人主義ト社会主義

社会的教育説ハ社会ノ進歩ノ發展ヲ以テ教育ノ目的トスルモノ
シテ個人主義ノ説カ個人ノ進歩發展ヲ目的トスルト相對スルナリ。
此所ニ一言注意スヘキコトハ社会ナル語ニ広狭ニ義アルコトナリ。
狭義ノ社会トハ家庭ト國家トノ中間ニ位スル公夫生活ヲ指シ広義ノ
社会トハ人類國家教会其他種々ノ特定社会ヲ總括スルモノナリ。

此如ニテハ寧ロ広義ニ社会ヲ解スルモノトス、社会的教育説ハ社
会ヲ本位トシ其ノ進歩ノ發展ヲ理想トレ此ノ原理ニ適合スル様一
人ヲ陶冶セントスルナリ。換言スレハ個人ヲ社会的發展ノ可能ナル
様ニ陶冶セントスルナリ。

カ、ル主義ノ結果トレテ此主義ハ個人ノ社会性一徹性ヲ極力助長
シ之ニ有碍ナル利己排他心等ヲ矯正セントスルモノナリ。狭テ個人
ノ自發性ノ自由ナル發揮ヲ許サ、ルナリ。斯ノ如キ思想ハ過去ニ於
ケル極端ナル國家主義或ハ教会主義ニ於テ見レコトヲ得、社会的教

育説ニハニツノ流レアリ。一ハ現實ノ社会生活ヲ標準トスルモノニ
シテ他ノ一ハ理想ナル社会ヲ標準トスルモノナリ、前者ハ準備教
育、注入教育ニ傾キ前者ニ述ヘタル實際主義ト一致スルモノナリ、而
シテ個人主義ノ説トハ兩立シ得サルモノナリ、此ニ反シテ後者ハ理
想的社会ヲ標準トスルモノニシテカ、ル社会ニ於テハ個人ト社会ト
ヲ調和セシメテ考フレカ故ニ個人主義ノ説ト調和シ得ルモノナリ、
此處ニテ論究スレハ主トシテ前者ニツキテ之ヲ述ヘントスルナリ。

第二項 正史的考察

次ニ社会的教育説ノ正史的變遷ニツキテソノ概況ヲ述フヘシ、古
代ニ於テハ一徹ニ國家主義ノ教育説カ行ハル、スハルタニ於テハ剛
硬ナル武士ヲ養成スルヲ重要ノ事トシ子弟ヲ國有物ト見ナシ、嚴格
ナル規律ノ下ニ教育ヲ施セリ、故ニスハルタノ教育ハ單國のノ國家
主義ノ上ニ教育ノ目的ヲ考ヘタリ、アゼンヌモ亦國家主義的ナルモ

スバドダノ軍國的ナルニ對シテ平和的ニシテ有為ナル公民ヲ養成スルコトヲ目的トセリ、ローマニ於テハ國民ハ一般ニ實際的ニシテ理論ヲ好マサル傾向アリ。伏テ教育ノ目的ニ政治國民トシテ國家ノ威ヲ尊ビ國法ヲ尊重スル有罪ノ國民ヲ作ルコトニアリ、中世紀ニ於テハクリスト教ノ隆昌ト共ニ教育制度ノ成立スルニ及ンテ教權主義トナリ、其ノ目的ノ為ニ教育スルニ至レリ、即チ個人ヲ個人トシテ教育スルニアラスシテ教員ノ為ニ忠實ナル人間ヲ作ルコトヲ以テ目的トセリ、

近世期ニ及ンテハ個人ノ自覺高マリ個人主義ノ思想ノ勃興セリ、其ノ當時新教ニ及シタル *Protestants* (エスイター) 教ハ旧教ノ為ニ辯護ノ位置ニ立チテ教權主義ヲ以テ教育ノ目的ヲ論セリ、十七、八世紀ニ於テハ極端ナル個人主義、理性主義行ハレ社会的ノ思想ハ沈滞ノ状態ニアリタリ、然ルニ十九世紀ニ至ルニ及ンテ其ノ反動トシテ社会的ノ思想勃興スルニ至レリ、之カ原因トナルハキモノハ
第一 新人文主義ノ思想ノ勃興シタルコト、

第二、ダルウイン一派ノ進化論ノ影響之レナリ。

進化論ニ於テハ人ハ神ノ創造物ニアラスシテ動物ノ進化セルモノナリトシ、個人ハ社会的ノ進化ニ適応スルコトニヨリテ生存シ榮達スルモノナリトナシ社会的關係ヲ商レテ個人ノ生存發展ハ不可能ナルモノトシ社会觀念ノ必要ヲ知ラシムルニ至レリ。

第三、Comte (コント) ノ社会学ノ創設ナリ、氏ニヨリテ初

メテ社会ノ本性、社会ト個人トノ關係等カ明ニセラレ社会ヲ輕視スル個人主義思想ノ誤レルコトヲ明ニスルニ至レリ。

第四、ナポレオン戦争ニヨリ独乙ヲ始メトシテ歐洲諸國ニ於テ

國家主義ノ思想ノ盛トナレルコトアリ、

尚以上ノ原因ノ外ニ一般ニ社会制度亦ニ國家生活ノ整備シタルコトモ社会的教育ノ志ルニ至レル大ナル原因ナリ、更ニ二十世紀ニ於テハ James 等ノ Pragmatism ノ思想ハ一種ノ社会的ノ考ヘ方ニシテ Dewey ノ如キハ此ノ派ノ主義者ナリ、又一方ニハ生物進化ノ考ヨリ社会的教育説ヲ説クモノモアリ、

第三項

社会的教育學說ニ関スル主義

次ニ社会的ノ教育說ノ意見ニ就キテハ三ノ段ヲアサヘシ、
 Platoハ理想的ノ國家論ヲ説ケル處ニ於テ有テナリ、然レモ其ノ所
 ノ國家ハ正義ノ行ハル、社会ナリ、然レテ教育ノ目的ハ理想的ノ國家ノ
 一員ヲ作ルニアリテ國民トシテ必要ナル品性ヲ陶冶スルニアリトナ
 レ特ニ訓練ヲ重ンセリ、

Aristotle ハ人ハ政治的動物ナリトナシテ國家ノ必然性ヲ説キ
 國家ハ最高善ヲ實現スル為ノ存在ニシテ人ハ國家生活ヲ為スコトニ
 ヨツテノミ眞ノ人格ヲ完成シ得ルナリ、教育ノ目的ハ國家ノ最高善
 ヲ實現センカ爲ニ施サレサルヘカラス、斯ク道德的ナル國家主義ノ
 下ニ教育目的ヲ考フルナリ、

近世ニテハ独乙ニ於ケレ國家主義的ノ最高意見ヲ見ルコトヲ得、
Fichte ノイヒテハ独乙カナポレオンノ為ニ正直ヲ蒙リテ國家力危

急存亡ノ状態ニ陥リシ際ニ独乙國民ニ告クト歎スル講演ヲナシテ國
 家主義ノ思想ヲ鼓吹セルコトハ有名ナルコトナリ。此ハ外交上ヨリ
 シテ國家思想ノ作興スルニ至レル理由ナレ共一面ニハ *Kant* 以テ
 絶対主義ノ哲學思想ニ基ケル國家主義ノ主張ヲ興リテカアリ、

Schleiermacher シユライエルマツヘル氏ハ教育ノ目的ハ共同
 生活ノ能力ヲ興フルニアリト主張セルナリ、此ハ一ノ社会的教育主
 義トスハサレヘカラス、最近独乙教育界ニ於ケル有名ナル一人タル
Kerckhoffer ケルシエンシユタイホル氏ハ國家生活本位或ハ
 又國家公民主義ノ教育說ヲ主張セル處ニ於テ有名ナリ、

ソノ最高ノ目的トスル所ハ國家有用ノ人ヲ造シニアリ、然レ已ニ
 此ハタル實際主義ノ教育說トモ見ナシ得、彼ノ教育思想ヨリシテ勤
 勞ニ商ニ業ニ於テ達セル現代社会ニ有用ナル人ヲ作ルニトシテ重シ
 タリ、且ツ國家生活ヲナスニ對リテ自治、波同ノ精神ヲ尊重スルナ
 リ。故ニ一言ニシテ言ハハ産業的國民ヲ養成スルヲ力説スルモノナ
 リ。最近我國ノ教育界ニ於テ公民教育 *Civic Education* ノ

必要唱ヘラレツ、アレカ抑モ之ヲ始メテ唱ヘタレハケルシエンシユ
ダイネルナリ

尚独乙ニ於ケル社会的教育説トシテハナトルポ *naturp* ムルゲ
マン *Bergleiman* アリ、ナトルポ=ヨレハ教育ノ目的ハ社会ノ影
響ニヨリテ個人ノ意思活動ヲ陶冶シ個性及技能ナル主観ヲ超越シテ
意思ヲ社会的ニ發展セムンコトニアリト述ヘタリ、ベルゲマンハ
個人ハ生レナカラ社会ノ中ニ親屬セルモノニシテ個人ハ社会ヲ離レ
テ存在スルコト第ハサルモノニシテ社会ノ目的ヲ達スル手段トシテ
存在スルモノナリトセリ、此ノ如ク最モ極端ナル社会的教育説ヲ主
張セルナリ、又アメリカニ於ケル實用主義ノ教育者 *Peabody* モ本
社会的教育説ヲ主張スル一人ト見ルコトヲ得、彼ニヨレハ現代ノ個
人主義的ナル教育ハ實際社会ニ適サカレド教育ヲナンツ、アルモノ
ニシテ進カ一現代教育ノ道標ナリトス、学校教育ハヨロシク社会的
見地ヨリ出發シテ社会生活ヲ学校教育ノ基礎トシ社会ノ要求ニ応ス
ル様ニセサルヘカラスト述ヘタリ、以上列挙セル社会教育説ハ個人

ノ本質價值ヲ輕ンシ個人ヲ以テ社会ニ從屬セルモノト見做シ個人ハ
社会ノ進歩發展ノ為ニ手段トナリ又價值ヲ表シ得ルモノト考アル実
ニ於テ一致スルモノナリ、ソノ論スル所ニ國家ヲ重ニスルモノ或ハ
教会ヲ主トスルモノ或ハ又広義ノ社会ヲ意味スルモノ等ソノ見ル所
ニヨリテ多少ノ相違ヲ有スレ共個人ヲ輕ンシ社会本位的ナル事ニ於
テハ一致スルモノナリ。

第四項

個人的教育者説ト社会的教育者説トノ調和

個人的教育説ハ個人ノ本質價值ヲ極端ニカ説シテ個人ノ性教ヲ祭
擇セシメ個人ヲシテ夫自身ノ為ニ自由ナル發展ヲ遂ケシメサルヘカ
ラスト主張シ社会ノ方面ニツキテハ多クノ注意ヲ払ハサルナリ、加
之、ルソーノ如ク社会ヲ教育ニ存寄ナリト見ルニ至レルナリ、之ニ
反シ社会的教育説ノ人々ハ社会ノ進歩發展ヲ本位トシテ個人ヲソノ

手敏魂セントスルモノニシテ社会ヲ養レテハ個人ノ便宜ヲ認メサレ
ナリ即チ社会生活ヲナスコトニヨリテ個人ノ便宜ヲ生スルモノト考
フルナリ。此ノ如ク両説ハ両極端ニ位シテ相對峙シ至ニ他ヲ否定セ
ントスルナリ。然レ乍ラ両説共ソノ極端ニ陥リテ正鵠ヲ失シタレモ
ノト云ハサルヘカラス、此莫ヲ明ニスルニハ個人ト社会トノ關係ニ
ツキテ考察スルコトヲ要ス、

個人ト社会トハ人間生活ノ連続の連続の相対ヨリ求ルモノニ
シテ或チ者カ之ヲ赫ト水ノ關係ニ例ヘテ述ハタルハ意味アル比喩ナ
リ、人間生活ヲ個人ニツキテ考フル場合ニ個人不位ヲ生シ社会ニ着
目スル場合テ社会本位ノ思想ヲ生ス、然レ夫個人ト社会トハ同時一
体的ノ關係ナルモノナルカ故ニ此ヲ分離シテ考フル事ハ思考ノ便宜
ヨリスレコトニシテ如莫ナル人其生活ニ於テハ個人ト社会トハ之ヲ
分離シテ存在スルモノト見ルコト能ハス、先ツ個人ノ見地ヨリ考フ
ルニ個人ノ生存スルニ至レルハソノ又母祖先ニ基クモノニシテ此ノ
意味ニ於テ己ニ個人ハ社会的ノ所産ナリト云ハサルヘカラス、又人

ノ生存スルニ衣食住ノ物質生活ヲ始メ言語風俗習慣道德法律生活等
ノ凡ユル社会的要素ヲ取り入ル、コトニヨリテソノ物質的並ニ精神
的生存ヲ全ウシ得ルナリ、カク考フレハ個人ハ社会的ノモノト云ハ
サルヘカラス、然レ夫個人ハ一方ニ於テハ独立自主ノ存在ニシテ特
殊ノ個性ヲ有シ創造性ヲ有スルナリ、而シテソノガ藝術技藝等ニ自由
ニ發揮セラレテ新シキ發明發見トナリ新シキ藝術ノ産出トナリテ社
会ノ文化ヲ促進スルナリ、此ニ個人ノ價值ノ尊重セラル、所以存ス
社会ノ發展進歩ハ個人ニソノ根柢ヲ有スルモノト云ハサルヘカラス
ラツセルカ人固ノ衝動ヲ *potentielle impulsion* ト *create*
impulsion トニ分テ前者ヲ抑ヘテ後者ヲ自由ニ發揮セシムルコトヲ主
張セルハ性カニ一面ノ眞理ヲ説クモノナリ、然レ夫個人ノ方面ノミ
ヲ尊重スルニ偏ス、己述ノ如ク個人ハ一方ヨリ見レハ社会的ノ存在
ナルカ故ニ此ノ方面ノ全ク否夫無視スルコト畢竟個人ノ自故ト云ハ
サルヘカラス、

次ニ社会ノ方面ヨリ見ルニ社会ハ個人ノ機械的結合ニアラスシテ

物質的ニモ精神的ニモ個人ノ有機的団体ナリ、而シテ此ノ有機的団
体ニ於テハ一ノ社会精神 *Social Spirit* ナルモノ存スルナリ
此ハ社会アレハ必ス存ス、例ハ一家ニ家風カアリ国家ニ國民精神ア
ルカ如キ此レナリ、而シテ社会精神ハ客観化シテ社会文化トナリテ
表ハル、ナリ、然モソハ個人精神ノ如ク知情意ノ三方面ニ配シテ考
フルコトヲ得、即チ言語芸術技藝ノ如キハ知的方面ニ属シ、宗教、
美術、文学等ハ情的方面ニ属スト見ルコトヲ得ヘシ、此等ノ三方面
ハ一ノ社会ニ於テハ社会精神中ニ自ラ統一セラル、モノナリ、此ノ
事實ハ各國ニ於テ種々ノ異ニ於テソノ文化ニ特色ヲ有スルヲ見レハ
明カナリ、個人ハカ、ル社会精神ニヨリテ支配セラル、ナリ、即チ
個人ハ社会ニ生レ、社会ニ生存シ社会ニ死スルモノニシテソノ自我
ノ内容ハ社会ヨリ之ヲ得レナリ、即チ社会精神、社会文化ニヨリテ
影響セラル、ナリ、然シテ先ニ述ヘタル如ク個人ハ独自ノ個性ヲ
有シソノ自覚性ヲ自由ニ發揮セントスル性質ヲ有ス、又先ニ述ヘタ
ル社会精神ナルモノハ架空的ニ個人ヲ齎レテ存在スルモノニハアラ

x =

スシテ個人ノ精神内ニ存スルモノナリ、即チ *Social Spirit*
ハ個人精神ノ社会的方面ナリト云フモ不可ナシ、然レ夫此ハ單獨
ナル個人ニハ存セスレテ社会生活ヲナスニヨリテ生スルナリ、夫
故ニ社会ハフ構成スルノ基礎ハ畢竟個人ハニアリト云ハサルヘカ
ラス、然テ社会精神ノ社会文化ノ内容ハ個人ノ進歩發展ニヨリテ
進歩發展セシメラル、モノト云ハサルヘカラス。
以上ノ如ク個人ト社会トハ同時一体的ノモノニシテ又相互依存
的ノモノナリト云フコトヲ得、然ルニ個人本位ノ思想ハ個人ヲ總
對自由ナルモノトシテ社会ノ制限ヲ無視セントシ社会本位ノ思想
ハ社会ハ個人ニ對シテ全权ヲ有シ、個人ハ社会ノ手段ニ外ナラス
トナスナリ、此等ハ何レモ社会ト個人トノ關係ニツキテ誤リタル
見解ヲ取ルニ基クモノナリ、教育ノ目的ヲ考フルニ當リテハ兩思
想ノ何レヲ取りテモ不当ナリ兩思想ヲ調和セシメテ考フルコトニ
ヨリテ妥当ナル見解ヲ道キ表ルモノト信ス。

x 三

第六節 教育目的の論定

前教節ニ涉リテ述ヘタル所ハ何レモ教育ノ目的ヲ論スルニ当リテノ材料トナルモノニシテ思フニ教育ノ目的ハ理想的人格ヲ養成スルニアリ。然ラハ理想的人格トハ如何ナルモノヲ指スマト云フニ之ヲ内容ト形式トノ両方面ヨリ見ルニトテ得ヘシ。然ンテカクスルコトニ依リテ自ラ教育目的ノ内容ト形式トヲ考察シ得レナリ。先ツ理想的人格ノ内容ニツキテ考フルニ此ハ身体の價値ト眞善美聖ノ精神の價値トヲ要素トスルモノナリト云フコトヲ得。而シテ此等ノ精神の價値ハ文化ノ要素トナルモノナルカ故ニ理想的人格ノ内容ハ身体ト文化トノ生活ナリト称スルコトヲ得。從テ教育ノ實質的目的ハ身体ト文化トノ生活ニヤリト云フコトヲ得ヘシ。今此ヲ實際主義ト理想主義トニ配シテ考フレハ實際主義ハ身体生活ト科李トヲ内容トスルモノニシテ理想主義ハ道德藝術宗教ヲ即チ善美聖ヲ内容トスルモ

ノナリ。故ニ両主義ハ教育全目的ノ一部ヲ分括スルモノナリ。次ニ個人ト社会トノ両主義ニ配シテ考フルニ文化ハ社会生活ノ内容ナリト今時ニ個人生活ノ本質ヲナスモノナリ。即チ科李、道德、藝術、宗教ハ社会の所産ニシテ然モ個人ノ創造ニ俟ツカ故ニ文化ノ中ニハ個人社会ノ両主義ヲ包含スルモノナリ。

次ニ形式的方面ヨリ教育ノ目的ヲ見ルニ前々際理想的人格ノ形式ヲ考フルコトニヨリテ之ヲ明ニスルコトヲ得。理想的人格ノ形式ハ内容ト相俟ツモノナルカ故ニ身体ト精神トノ完全ニ兼達セル人ヲ以テ理想的人格ノ形式トナスコトヲ得。從テ教育ノ形式的目的ハ身体ト精神トノ兼達進歩ヲ助成スルニアリト云フコトヲ得。マスタロツチー *pedagogie* カハ性諸能カノ調和的發展ヲ主張セルハ正ニ此ノ真ニ当ルナリ。要スルニ教育ノ形式的目的ハ身体、並ニ知情意ノ両者完全ナル兼達ニアリト云フヲ得ヘシ。
最後ニ教育ノ目的ニ關スル斷案即チ定義ヲ述ヘサルヘカラサレ共此ニツキテハ吾者見ル所ニヨリテ相違ヲ免レスシテ次ニ述フル所ハ

大体ニ於テ妥当ナリト信スル所ナリ。

教育ノ目的ハ理想的人格ヲ作ルニアリテ個人的ニ見レハ健全ナル身体ヲ有シ知情意ノ可成ニ發達セル人タラシメ、社会的ニ見レハ社会文化ヲ理解シ進ンテ之ヲ創造發展セシムル人タラシムルニアリ。

(附)

森田氏、……道德的品性、大瀨氏、……一般的人格、中島氏、……理想的人格、野田氏、……個人ノ心身發達社会文化ニ貢献、吉田氏、

上ニ述ヘタル教育ノ一般的目的ハ時代ト社会トノ如何ヲ問ハス、古今東西ニ通シテ純粹学理上ヨリ考究シテ普遍ナリト信スル教育目的論ナリ、然レ夫實際教育ニ之ヲ適用スル時ニ当リテハ時代、社会性別、年齢等ニ応シテ特殊化セラレサルヘカラス、此ニ於テ教育ノ特殊目的を生スルナリ。

第七節 各種教育ノ目的

第一項 国民教育ノ目的

国家ハ一足ノ領土ノ上ニ存在シ主权ニヨリテ統一セラレ、国民ノ社会ニシテ領土ハ氣候風土、自然資源等ニ於テ主权ハ建國ノ事情ニ依リテ又国民ハ国民性、民族性ニヨリテ固々ソノ事情ヲ異ニシ、又ソノ間ニ發達シタル國民理想及文化ハ夫々国家ニ於テ特色ヲ有ス、此レ国家ヲ以テ文化單位トナス所以ナリ、国民教育ハ特殊国家ニ於ケル國民ノ教育ヲ目的トスルモノニシテ然モ国家力特殊ノ理想及文化ヲ有スルモノナル以上ハ國民教育ノ目的ハ国家ニヨリテ異ラサレテ得ス、ソノ内容ノ相違ハ國体、政体、國民道德、歴史、國民理想等一切ノ文化内容ヲ基トスルモノナリ。

我國家ニアリテハ萬世一系ノ皇室ヲ戴ケル金甌無缺ノ國体、忠孝一本ノ大義、祖先崇拜ノ風習、家族制度ノ如クハ國民教育上重要ナ

ル要素ヲナスモノナリトス。日本國民教育ノ目的ニ日本國民トシテ
善良有為ノ人ヲ作レニアリ。然レ國民教育ノ目的ハ当然國家主義的
ナラサルヘカラス、國家力自主獨立ノ社会トシテソノ第一存続發展
ヲ期スルモノナレ以上ハ当然國家主義的ナラサルヲ得ス。然レニ國
家主義トスフ時ハ直チニ尊卑外ノ排他的思想乃至帝國主義、軍國
主義ト企謀ニ解スル人ナキニシテアラス、然レ共此ハ國家主義ノ眞
義ヲ解セサルモノト云フヘシ。何トナレハ世界ニハ五十有餘ノ國家
並立シ各々ノ國家ハ特殊ノ理想及文化ヲ有シソノ自主獨立統一存続
發展ヲ期セサルモノナシ、而シテ互ニソノ文化ヲ融通シ合ヒ保護シ
テ世界ノ平和、人類ノ幸福ヲ實現センコトヲ理想トセリ。コレ國際
主義ヲ生スル所以ナリ。然レ共國際主義ナルモノハ次シテ特殊國家
ノ特質ヲ無視シ又ハ特殊國家ノ獨立發展ト矛盾撞着スルモノニアラ
ス。

國際主義ハ國家ノ共存共榮ヲ主張スルモノニシテ國家主義トハ正
シキ意味ニ於テ次シテ衝突スルモノニアラス、眞ノ國家主義ノ中ニ
ハ國際主義ノ精神ヲ包含スルモノアレハナリ。余ノ云フ國家主義ト
ハカ、ル意味ノモノナリ。

第二項

國民普通教育ト専門教育トノ目的

國民教育ハ之ヲ敬愛ニ云ハハ國民普通教育ト称ス、前述ノ如ク一
是ノ國家ニ生存スルモノハ凡テソノ國體ヲ重ンジ國民道德ヲ奉シ
ノ國民ニ特有ナル性質ヲ養ヒソノ國ノ文化ニ同化スルコトヲ要ス、
斯ノ如キハ國民タルニ必須ノ資格ニシテ次シテ個人ノ職業地位階級
等ノ差ニヨリテ異ルニアラス、斯ノ如キ國民トシテノ資格ニ備ヘセ
シムル為ニ基礎トナルヘキ教育ヲ國民普通教育ト称ス、此ハ分チテ
初等中等ノ二種トナス。

初等教育ハ小童教育ニシテ尋常小学六ケ年ノ義務教育ト更ニ二ケ
年若シクハ三ケ年ノ高等小童ノ教育ヲ指称シ、中等教育ハ高等普通
教育トモ称シ男子ニ於テハ中學校五ケ年女子ニ於テハ女學校四ケ年

右シクハ五ヶ年ノ教育ヲ指ス、尚中等学校ノ中ニ農工商ニ附スル職業教育ヲ施スモノヲ実業学校ト称シ。高等普通教育ヲ職業化シテ施スモノナリ。

小學校ノ義務教育ナルモノハ國家ノ強制スル所ニシテ國民タルノ基礎教育ヲナス知ナリ、コレ個人ノ生存ヲ全ウスルノ所以ノミナラズ、國家ノ存続發展ニ欠クヘカラサルモノナリ、現代文化國ニ於テハ何レモ義務教育ノ制度ヲ有セサルハナシ此ノ制度ハ十九世紀ノ始メプロシアニ於テ設ケラレタリ、ソノ成功ニ倣ヒテ各國共此ヲ採用シタルモノニシテ夫ハ十九世紀後半ニ屬ス。参考ノ為ニ法令上一表ハレタル教育ノ目的ヲ摘録スヘシ

小學校令第一條一

小學校ハ兒童身體ノ発達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並ニソノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス、

中學校令第一條二

中學校ハ男子ニ必須ナル高等普通教育ヲナスヲ以テ目的トス、

凡例 教育 一ノ外内

女學校令第一條二

高等女學校ハ女子ニ必須ナル高等普通教育ヲナスヲ以テ目的トス、

実業学校令第一條二

実業学校ハ工業農業商業ノ実業ニ従事スルモノニ對シテ必須ナル教育ヲナスヲ以テ目的トス

専門教育ト高等普通教育トヲ終リタルモノニ對シテ更ニ高等ノ學術技術ヲ教授スルモノナリ、

専門学校令第一條二

高等ノ學術技術ヲ教授スル学校ハ専門学校トス、即チ政治、法律、經濟、文學、宗教、技術、音樂、外國語、医学、藥学、農工高等ノ本科ニ對スル高等ノ教育ヲ施スモノナリ、而シテ専門教育ハ國民普通教育ノ重要ナルト同時ニ個人ノ發展、國家ノ進歩ニ取リテ欠クヘカラサルモノニシテ終局目的ハ國民普通教育ト全一ナレ共教育ノ性質程度等ニ於テ差ヲ有スルノミナリ。即チ一ハ基礎

的ニシテ他ハ特殊の職業的ナル莫ニアリ、而シテ大卒教育ニ至リテハ學術ノ蘊奥ヲ極ムルヲ以テソノ目的ノ一トスルモノナリ、而シテ學術ノ探究ハ國境ヲ有セサルカ故ニ國民的要求最ニ稱茲ナルカ如シ然レ共如何ナル教育ニ國民生活ノ準備タル以上全然國民的要求ヲ脱スヘキモノニアラス、夫故ニ新大卒令ニヨレハ
大卒ハ國家ニ必要ナル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授シ並ニソノ蘊奥ヲ攻究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶冶及國家思想ノ涵養ニ留意スヘキモノトス。
トアリ、視フニ大卒教育カ偏智主義ニ傾クノ結果人格ノ陶冶、國家觀念ノ涵養等ニ稍モスレハ留意セサルノ怨ミアルカ故ニ此ノ如キ規定ヲ設ケタルモノナリト信ス、教育ノ目的ノ上ヨリ見テ寧ロ当然ト云フベキナリ。

第三項 女子教育ノ目的

女子カ人トシテ身體ノ健康ヲ保チ社會國家ノ一人トシテソノ進歩發展ニ貢獻スルノ莫ニ於テハ男子ト異ルヘキニアラス、然レ共ソノ目的ヲ達スル方面及手段ニ於テハ自ラ相進アリ、ソノ相進ノ起レル所以ノモノハ女子ハ生理上心理上男子ト異リ從ヒテ天職ノ相進ヲ未スモノナリ、男女ハコノ天職ノ相進ニ基キ男子ト相扶ケテ分業的ニソノ任務ヲ果スコトニヨリテ家庭社會國家ノ生活ヲ完成スルコトヲ得、此ノ如ク女子ニ特有ナル天職アリ、此等ヲ通シテ人トシテ國民トシテノ義務ヲ全ウシ得ルモノトセハ教育ノ目的モ亦一子ニ於テハ特殊化セラレサルヲ得サルナリ。

先ツ國民普通教育ノ見地ヨリ考究スルニ國家ノ一員タルニ於テ男女ハ本質的ニ異ラサルモノナルカ故ニ義務教育ニ於テハ男子ト同様ノ教育ヲ施スヘキナリ、然レ共小女期ニ達シ自ラ女子ノ特質ヲ發揮シ性別ヲ自覚スル時ニ於テハ女子ノ特質ト天賦トニ省ミテ教育ヲ施スヘキ必要アリ、
而シテ女子ノ天賦ノ最モ重要ナル要素ト良妻賢母ニアリト云ハサ

ルヘカラス
 次ニ専門教育ノ見地ヨリ考フルニ女子カ高等専門ノ教育ヲ受クル
 コトハ女子ノ天賦ヲ全ウスル為ニ社会ノ文化ニ適用ナル進歩セル教
 育ヲ受クルヲ根本トスヘキモノニシテ女子カ男子ト同等ニ職業ニ従
 事シ或ハ學術ノ研究ニ一身ヲ委ヌルカ如キコトヲ以テ女子専門教育
 ノ目的トスヘキモノニアラサルナリ。寧ロ夫等ハ除外例トシテ考フ
 ヘキナリ、故ニ専門教育ニ於ケル男女ノ差ハ教育低度ノ高低ニアラ
 スシテ宜敷ク天賦ノ相違ニ立脚スヘキモノト信ス。

大正十四年一月廿八日印刷
 大正十四年一月三十日發行

教育學上卷頭付
 定價金八拾錢也

講述者 池 岡 直 孝

東京市本郷區本郷六丁目ニ番地

發行兼 石 田 嘉 一

東京市本郷區本郷帝國大學本門前

印刷所 文 信 社



東京市本郷區本郷六丁目帝國大學本門前

發行所

文

信

社

電話小石川三一四七番
 振替口座東京三〇九二八番

284
262

終